

舍監

訓導

書記

第二條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教頭以下ノ職員ヲ統督

ス但學校長ヲ置カサルトキハ學校長補ヲ置キ學校長ノ職務ヲ掌ラシム

第三條 教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任シ學校長ノ監督ニ屬シ教務ヲ整理シ教

室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第四條 教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教授ノ事ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第七條 舍監ハ學校長及幹事ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 訓導ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ附屬小學校生徒教授ノ事ヲ掌リ

兼テ師範生徒實地練習ノ事ヲ助ク

第九條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 教諭助教諭訓導ノ員數ハ學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ應シテ之ヲ定

ム

第十一條 學校長及教頭ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ學校長補以下ハ判任ノ待遇ヲ

受ク但尋常師範學校職員ハ勅令第六號高等官官等俸給令勅令第三十六號

判任官官等俸給令及明治十七年太政官達恩給令ノ限ニアラス

勅令第六號及  
第三十六號ハ  
第十九號ニ應  
シテ太政官達  
恩給令ハ第二  
十號ニ應シテ  
三號官達恩給  
令ニテ消滅シ  
法ハ第十號ニ  
應シテ消滅シ  
戦ス

○

○東京圖書館官制 明治二十二年三月 勅令第二十一號

朕東京圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京圖書館官制

第一條 東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ各種ノ圖書ヲ蒐集保存シ及閱

覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條 東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長

館次長

書記

第三條 館長ハ一人奏任トス文部大臣ノ命ヲ受ケ圖書ノ蒐集保存分類整頓及目錄編纂其他一切ノ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 館次長ハ一人奏任トシ現任館長ノ次等以下トス館長ノ職務ヲ佐ケ

館長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○農商務省

沿革略記

明治十四年四月第二十五號達ヲ以テ農商務省ヲ置キ職制並事務章程ヲ定メ書記農務商務工務山林驛遞博物會計ノ諸局及農商工上等會議ノ九ニ分ツ○同年同月第二十六號達ヲ以テ內務省所屬ノ驛遞山林博物勸農ノ四局並大藏省ノ商務局ヲ管ス○同年八月第七十八號達ヲ以テ職制第一項ヲ増補ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年四月第二十號達ヲ以テ職制第二項ヲ改正ス○同年五月第二十六號達ヲ以テ駒場農學校職制ヲ定メ職員ヲ校長教授助教ト爲ス○同年八月第四十七號達ヲ以テ五等六等ノ驛遞官ヲ置キ奏任トス一等屬ノ上等給ヲ廢ス○同年九月第五十六號達ヲ以テ駒場農學校職制ヲ廢シ更ニ本省所轄學校職制ヲ定メ職員ヲ校長幹事教授助教ト爲ス○十六年三月第十三號達ヲ以テ技術等級ヲ定メ職員ヲ正權大少技長技手一等ヨリ十等ニ至ルヲ置ク○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○十八年一月第三號達ヲ以テ農商務省職制及驛遞官職制中ヲ改正ス○同年六月廿六號達ヲ以テ技術等級表中ヲ改正ス○同年五月文部省告示第一號ヲ以テ東京商業學校ヲ文部省ノ管轄トス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ農商務大臣ヲ置ク○同年同月第七十號達

ヲ以テ遞信省ヲ置キ驛遞管船ノ事務ヲ管理セシメ鑛山工作ノ事務ヲ本省ニ屬ス○十九年一月第一號達ヲ以テ三池佐渡生野鑛山ノ事務ヲ大藏省ノ管理ニ屬ス○同年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年四月勅令第十八號ヲ以テ駒場農學校東京山林學校大小林區署官制ヲ定ム○同年同月閣令第七號ヲ以テ三田農具製作所貯木所錦織網場富岡製絲所千住製絨所新町紡績所官制ヲ定ム○同年同月閣令第九號ヲ以テ下總牧場ノ官制ヲ定ム○同年七月勅令第五十六號ヲ以テ駒場農學校及東京山林學校ヲ廢シ更ニ東京農林學校ヲ置キ官制ヲ定ム○二十年十二月勅令第七十三號ヲ以テ專賣特許局ヲ廢シ更ニ特許局ヲ置キ官制ヲ定ム○二十一年七月勅令第五十二號ヲ以テ千住製絨所ヲ陸軍省ニ屬ス○同年十二月勅令第八十七號ヲ以テ特許局官制中ヲ改正ス○二十二年三月閣令第七號ヲ以テ錦織網場官制ヲ廢ス○二十三年六月勅令第九十二號ヲ以テ東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トナシ十九年勅令第五十六號東京農林學校官制ヲ廢ス○同年同月勅令第二百二號ヲ以テ農商務省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三號ヲ以テ地質調査所官制ヲ定ム○同年七月勅令第十六號ヲ以テ富岡製絲所官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十七號ヲ以テ大小林區署官制ヲ改正ス

○農商務省官制 明治二十三年六月 勅令第二百二號

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省官制

第一條 農商務大臣ハ農、商、工及水產、林野、鑛山、地質、發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外褒賞ニ關スル事項ヲ掌ル

ム

第三條 農商務省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム

- 一 農商工諮詢會ニ關スル事項
- 二 圖書並報告書類ノ刊行及管理ニ關スル事項
- 三 内外博覽會及共進會ニ關スル事項

四 其他各局ノ主宰ニ屬セザル事項

第四條 農商務省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第五條 參事官ハ通則ニ掲クル事項ノ外臨時命ヲ承テ鑛山山林其他農商工ノ事ヲ巡視ス

第六條 農商務省ニ左ノ諸局ヲ置ク

農務局

商工局

山林局

鑛山局

特許局

會計局

第七條 農務局長商工局長及山林局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ鑛山局長特許局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第八條 農務局商工局及山林局ニ同次長ヲ置ク

第九條 農務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 農會及農業組合ニ關スル事項

二 農業及園藝ノ改良保護ニ關スル事項

三 農業土木及土地生産力ノ改良ニ關スル事項

四 農産物虫害豫防及驅除ニ關スル事項

五 蠶茶業ノ改良及組合ニ關スル事項

六 獸醫開業免許及試験ニ關スル事項

七 蹄鐵工開業免許及試験ニ關スル事項

八 免許獸醫及蹄鐵工ノ犯則處分ニ關スル事項

九 家畜家禽ノ衛生ニ關スル事項

十 牛馬籍ニ關スル事項

十一 狩獵免許ニ關スル事項

- 十二 家畜家禽及有益蟲類ノ蕃殖改良ニ關スル事項
  - 十三 漁業組合ニ關スル事項
  - 十四 漁業漁場ノ區域及監督ニ關スル事項
  - 十五 漁具漁船漁法ノ改良及取締ニ關スル事項
  - 十六 水産ノ蕃殖改良及水産物製造ノ改良ニ關スル事項
  - 十七 鹽田ノ改良及保護ニ關スル事項
  - 十八 農事及家畜家禽水産ニ係ル報告並統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十條 商工局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 商業會議所及商工同業組合ニ關スル事項
  - 二 度量衡ニ關スル事項
  - 三 商事會社ニ關スル事項
  - 四 商業仲立人及仲立人組合ニ關スル事項
  - 五 内外通商ニ關スル事項

- 六 相場所ノ營業ニ關スル事項
  - 七 工場製造所ニ關スル事項
  - 八 保險營業ニ關スル事項
  - 九 商工業ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十一條 山林局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 森林施業方按ニ關スル事項
  - 二 林野ノ區域及境界ノ調査ニ關スル事項
  - 三 官有林野ノ土地及物産ノ利用ニ關スル事項
  - 四 官有林野ノ保護蕃殖ニ關スル事項
  - 五 官有林野ノ土木ニ關スル事項
  - 六 民有林ノ保護ニ關スル事項
  - 七 保存林ニ關スル事項
  - 八 林野臺帳調整ニ關スル事項

九 林野ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項

第十二條 鑛山局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 鑛業ノ許否ニ關スル事項

二 鑛區ノ境界及位置訂正ニ關スル事項

三 鑛區ノ合併分割ニ關スル事項

四 鑛業ノ保護ニ關スル事項

五 鑛業ノ技術ニ關スル事項

第十三條 特許局ニ於テハ發明意匠及商標ニ關スル事項ヲ掌ル

特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム

第十四條 會計局ニ於テハ本省及各大林區署ノ豫算決算及省中ノ會計事務

並所轄ノ地所建物ニ關スル事項ヲ掌ル

第十五條 農商務省特許局ニ專任審判官二人專任審査官七人ヲ置ク

審判官ハ奏任トス審判ノ事ヲ掌ル

審査官ハ奏任トス審査ノ事ヲ分掌ス

第十六條 農商務省試補ハ五人ヲ以テ定員トス

第十七條 農商務省ニ技師十七人審査官補十二人及技手五十六人ヲ置ク

審査官補ハ判任トス特許局ニ屬シ審査官ノ事務ヲ佐ク

第十八條 農商務省ニ技師試補十二人ヲ置ク

第十九條 農商務省屬ハ二百人ヲ以テ定員トス

○貯木所官制 十九年四月

三田農具製作所貯木所 錦織綱場富岡製絲所千住製絨所新町紡績所ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

貯木所官制

第一條 貯木所ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ須要ノ地方ニ之ヲ設ケ  
官材ノ貯蓄販賣ノ事ヲ掌ラシム

第二條 貯木所ニ職員ヲ設ケコト左ノ如シ

所長  
屬

二十一年十一月  
三田農具製作  
所ハ公費分ニ  
上ノ費分ニ  
附ス  
二十一年六月  
日官報ヲ以テ  
新町紡績所  
水戸二日所  
順人へ引渡シ  
タル旨ヲ載セ  
二十一年七月  
勅令第五十二  
號ヲ以テ千住  
製絨所官制ヲ  
定メ陸軍大臣  
ノ管理ニ屬ス  
二十二年三月  
閣令第七號ヲ  
以テ錦織綱場  
官制ヲ廢止ス

第三條 所長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○下總牧場官制十九年四月  
勅令第九號

下總牧場ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 下總牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ兼テ嶺岡支牧場ヲ管轄シ牛馬羊ノ改良蕃息ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 下總牧場ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

第三條 場長ハ判任トス農務局長ノ指揮監督ヲ承ケ場中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス場長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○富岡製絲所官制明治二十三年七月  
勅令第百十六號

朕富岡製絲所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

富岡製絲所官制

第一條 富岡製絲所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絲ノ事業ヲ經營シ其ノ改良ヲ圖リ及之ニ關スル必要ノ事務ヲ處理スルコトヲ掌ル

第二條 富岡製絲所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

屬 六人

技手 五人

第三條 所長ハ奏任ニ等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ事ニ従事ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絲ニ關スル技術ニ従事ス

○大小林區署官制明治二十三年七月  
勅令第百二十七號

朕大小林區署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大小林區署官制

第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ賣拂及貸渡ニ關スル事項

二 官林ノ境界調査分合ニ關スル事項

三 官林ノ施業ニ關スル事項

四 官林ノ產物賣拂ニ關スル事項

五 小林區署業務監督ニ關スル事項

第二條 大林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

林務官

林務官補

書記

第三條 林務官ハ奏任二等以下トシ十六人ヲ以テ定員トス大林區署長ト爲

リ山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ署中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 林務官補ハ判任五等以上トシ九十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮

ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任三等以下トシ百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ

承ケ庶務ニ從事ス

第六條 小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ保護ニ關スル事項

二 官林ノ栽培及土功ニ關スル事項

三 官林ノ產物採取及賣拂ニ關スル事項

大小林區署官制



四 官林ノ測量製圖ニ關スル事項

第七條 小林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

營林主事

營林主事補

森林監守

第八條 營林主事ハ判任三等以下トシ三百八十七人ヲ以テ定員トス小林區署長ト爲リ上官ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第九條 營林主事補ハ判任五等以下トシ四百八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第十條 森林監守ハ判任六等トシ四百八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ官林ノ保護ニ從事ス

○地質調査所官制 明治二十三年六月勅令第三百三號

朕地質調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地質調査所官制

第一條 地質調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 土性調査ニ關スル事項
- 二 主産植物及土性ノ關係試験ニ關スル事項
- 三 地質ノ關係地層ノ構造及鑛床ノ驗定ニ關スル事項
- 四 有用鑛物ノ驗定ニ關スル事項
- 五 有用物料ノ分析試験ニ關スル事項
- 六 地形測量ニ關スル事項
- 七 土性圖及其説明書編纂ニ關スル事項
- 八 地質圖及其説明書編纂ニ關スル事項

九 實測地形圖編製ニ關スル事項

第二條 地質調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 奏任

技師 十八人

技師試補 六人

技手 二十五人

書記 五人 判任

第三條 所長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ地質調査所全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技師及技師試補ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○ 遞信省

沿革略記

明治十八年十二月第七十號達ヲ以テ遞信省ヲ置キ驛遞電信  
 燈臺管船ノ事務ヲ管セシム○十九年二月勅令第二號ヲ以テ  
 官制ヲ定メ省中ニ驛遞電信燈臺管船會計ノ五局ヲ置ク○同年三月  
 勅令第八號ヲ以テ地方遞信官官制ヲ定ム○同年四月勅令第十九號  
 ヲ以テ商船學校電信修技學校ノ官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十  
 三號ヲ以テ遞信管理局名稱位置及管轄區域ヲ定ム○同年八月遞信  
 省令第二十號ヲ以テ電信建築官官制ヲ定メ二十年三月遞信省令第  
 一號ヲ以テ之ヲ廢ス○二十年三月勅令第四號ヲ以テ遞信省官制ヲ  
 改定ス○同年五月勅令第十四號ヲ以テ電信修技學校ヲ廢シ更ニ東  
 京電信學校ヲ置キ官制ヲ定ム○二十二年七月勅令第九十六號ヲ以  
 テ地方遞信官官制ヲ廢シ更ニ郵便及電信局官制ヲ定ム○二十三年  
 三月勅令第二十三號ヲ以テ東京電信學校官制ヲ廢止シ東京郵便電  
 信學校官制ヲ定ム○同年六月勅令第百十二號ヲ以テ遞信省官制ヲ  
 改正ス○同年同月勅令第百十三號ヲ以テ郵便爲替貯金局官制ヲ定  
 ム○同年七月勅令第百二十九號ヲ以テ郵便及電信局官制中ヲ改正  
 追加ス

○遞信省官制明治二十三年六月勅令第百十二號

朕遞信官省制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省官制

- 第一條 遞信大臣ハ郵便、電信、航路標識及船舶海員ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 遞信省ニ總務局ヲ置カス
- 第三條 遞信大臣官房ハ通則ニ揭クル官房及總務局掌理事務ノ外左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 理財ニ關スル事項
  - 二 會計ノ下検査ニ關スル事項
  - 三 廳舎建築ニ關スル事項
  - 四 物品ノ購買賣却ニ關スル事項

五 電信及航路標識用品製作ノ管理ニ關スル事項

第四條 遞信省ニ左ノ諸局ヲ置ク

郵務局

電務局

管船局

燈臺局

會計局

第五條 郵務局ハ郵便ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 電務局ハ電信ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 管船局ハ船舶海員ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 燈臺局ハ航路標識ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 會計局ハ金錢物品ノ出納管守ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 郵務局長及電務局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ管船局長燈

臺局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第十一條 遞信省專任參事官ニ二人專任書記官ハ六人ヲ以テ定員トス

第十二條 郵務局及電務局ニ局長ヲ置ク

第十三條 遞信省ニ通信事務官八人ヲ置ク 通信事務官ハ郵便、電信又ハ計

算ノ事務ヲ分掌シ若クハ郵務局及電務局ノ課長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス

通信事務官ハ奏任四等以下トス

第十四條 遞信省ニ司檢官十人及司檢官補十一人ヲ置ク 司檢官ハ管船局ニ

屬シ海員水先人ノ試験、審問、船舶ノ検査測量及新造船ノ工事監督ヲ掌リ

司檢官補ハ管船局ニ屬シ司檢官ノ事務ヲ佐ク

司檢官ハ奏任トシ司檢官補ハ判任トス

第十五條 遞信省ニ技師十二人技手二百五十六人ヲ置ク

第十六條 遞信省ニ試補三人ヲ置ク

第十七條 遞信省ニ屬二百九十人ヲ置ク



○郵便爲替貯金局官制 明治二十三年六月勅令第百十三號

朕郵便爲替貯金局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替貯金局官制

第一條 郵便爲替貯金局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便爲替及郵便貯金ニ關

スル事務ヲ掌ル

第二條 郵便爲替貯金局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

事務官 三人

書記 百七十八人

書記補 四百十八人

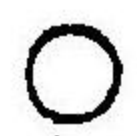
第三條 局長ハ奏任一等以下三等以上トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 事務官ハ奏任四等以下トス局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ従事ス

第六條 書記補ハ判任六等トス書記ノ事務ヲ助ク

第七條 遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ便宜郵便爲替貯金分局ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルコトヲ得



○郵便及電信局官制明治二十二年七月勅令第九十六號

朕地方遞信官官制ヲ廢シ更ニ郵便及電信局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便及電信局官制

第一條 郵便電信ノ業務ヲ執行スル爲地方ニ郵便電信局郵便局及電信局ヲ置キ遞信大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條 郵便電信局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ  
郵便電信局長

郵便電信書記

郵便電信書記補(二十三年勅令第百二十  
九號ヲ以テ本項追加)

第三條 郵便局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ  
郵便局長

郵便書記

郵便書記補(二十三年勅令第百二十  
九號ヲ以テ本項追加)

第四條 電信局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

電信局長

電信書記

電信書記補(二十三年勅令第百二十  
九號ヲ以テ本項追加)

第五條 郵便電信局郵便局及電信局ノ等級ヲ分テ各一等二等三等トス

第六條 一等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ奏任又ハ判任トス其ノ奏任

ヲ以テ局長ニ任スル局ノ位置及其ノ局長ノ官等ヲ定ムル左ノ如シ

東京 大阪

以上局長奏任四等以上トス

京都 横濱 神戸 長崎 函館

新潟 名古屋 熊本 仙臺 廣島

以上局長奏任三等以下トス

二等三等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ判任トス但三等ノ各局長ハ遞  
信大臣別ニ定ムル採用規則ニ依リ任用スルモノトス

郵便電信局長郵便局長電信局長ハ遞信大臣ノ指揮監督ヲ受ケ局中全部ノ

事ヲ管理ス

第七條 事務官ハ奏任トス其ノ官等ハ現任局長ノ次等以下トス局長ノ指揮

ヲ受ケ郵便電信業務ヲ掌理シ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第八條 郵便電信書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便電信業務ニ從事シ

事務官ヲ置カサル局ニ於テハ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第九條 郵便書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便業務ニ從事シ局長事故

アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第十條 電信書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ電信業務ニ從事シ局長事故

アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第十一條 郵便電信書記補郵便書記補並電信書記補ハ判任六等トス書記ノ

事務ヲ佐ク(二十三年勅令第百二十  
九號ヲ以テ本條改正)

第十二條 郵便電信書記書記補郵便書記書記補電信書記書記補ハ二千七百

三十五人ヲ以テ定員トス(二十三年勅令第百二十  
九號ヲ以テ本條追加)

第十三條 郵便電信局及電信局ニ電信技手ヲ置ク九百四十七人ヲ以テ定員トス(二十三年勅令第百二十  
九號ヲ以テ本條追加)

第十四條 一等郵便電信局一等郵便局一等電信局ハ遞信大臣ノ指定スル區域内ノ郵便電信局郵便局及電信局ノ業務ヲ監督ス(二十三年勅令第百二十  
九號ヲ以テ元第十二條  
トアルヲ第十  
四條ト改ム)

○商船學校官制明治十九年四月  
勅令第十九號

二十一年勅令第  
十四號ヲ以テ  
電信技手ニ東  
京電信學校ヲ  
置ク

朕商船學校電信修技學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商船學校官制

第一條 商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海運用機關ノ學術ヲ教授スル

所トス

第二條 商船學校ニ職員ヲ置クニト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條 校長ハ一人奏任二等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ及幹事以下ノ職員ヲ監督ス

第四條 幹事ハ一人奏任三等以下トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ三人奏任三等以下トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第四百二  
第七條 書記ハ判任トス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○東京郵便電信學校官制 明治二十三年三月 勅令第二十三號

朕東京電信學校官制ヲ廢止シ東京郵便電信學校官制制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京郵便電信學校官制

第一條 東京郵便電信學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 東京郵便電信學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條 校長ハ一人奏任一等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

教授ノ人員ハ生徒ノ員數及其學科ニ應シ別ニ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條 助教ハ判任トス校長ノ監督ヲ受ケ教授ノ職掌ヲ佐ク

第七條 書記ハ判任トス校長若クハ幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス



○會計検査院事務章程明治二十二年九月勅令第六百六號  
 朕會計検査院事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 會計検査院事務章程

第一章 部課

第一條 會計検査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ設ク

各課ノ課長ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ検査官補及屬若干員ヲ分屬セシム

第二條 會計検査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若ハ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章 會議

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

第四條 總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條 總會議ハ現員會計検査官三分ノ二以上部會議ハ半數以上出席スルニテ之ヲ開クハ議事ノ効力ヲ有セス

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

検査官補ヲ以テ補充スルハ出席會計検査官ノ數三分ノ一以内ニ限ル

第六條 總會議及部會議ハ課長ノ査閲ヲ經タル検査官補ノ報告書若ハ會計検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章 職員及權限

第七條 院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ級位級勳昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ成規ニ依リ増俸賞與ヲ行フ

- 第九條 検査官ハ奏任四等以上トシ検査官補ハ奏任四等以下トス
- 第十條 會計検査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル
- 第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス
  - 第一 各部及各課管理ノ事務ヲ定ム
  - 第二 職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス
  - 第三 検査官補ニ總會議出席ヲ命ス
  - 第四 臨時屬官ニ指命シテ検査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得ス
  - 第五 特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム
  - 第六 奏任以下ノ官吏ニ派出検査ヲ命ス
  - 第七 検査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム
  - 第八 議事ニ關ル細則ヲ定ム
  - 第九 會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス

- 第十 庶務及會計ニ關ル規定ヲ定ム
- 第十二條 院長ハ部ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ
- 第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シテ四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得
- 再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス
- 第十四條 總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得
- 第十五條 院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十六條 院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコト

ヲ得

第十七條 院長ハ検査ノ精覈ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽查ヲ行フヘシ

第十八條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

第一 所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽查シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス

第二 検査官補ニ部會議出席ヲ命ス

第三 部中検査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幫助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス

第四 部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス

第十九條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ

之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第二十條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以内ニ總會議ニ提出スルコトヲ得

第二十一條 部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ部長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第二十二條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付キ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ他ノ部長之ヲ代理ス

第二十四條 課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條 課長ハ課中検査官補ノ調製スル文書ヲ査閲シ其ノ適當ヲ證シ又ハ意見ヲ付シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ検査官補ノ責任ニ  
屬スルモノ、外ハ院長及部長ニ對シテ其ノ責ニ任ス

第二十六條 課長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ  
課長之ヲ代理ス

第二十七條 課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍内ニ於テ會計検査院法第十四  
條及第十五條ニ依リ同院ヨリ提出スヘキ検査報告書又ハ行務成績書ニ揭  
載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條 検査官補ハ計算書證憑書ノ検査報告ヲ爲シ審理書其ノ他文書  
ノ起草ヲ掌ル

検査官補ハ各計算書ヲ對照シ及證憑書類ヲ検査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナ  
ク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條 検査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ辯  
明ヲ爲ス

第三十條 検査官補ハ院長若ハ部長ノ命ニ依リ検査官ノ闕席ヲ補充スル爲  
ニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條 書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第三十二條 屬ハ各部課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ  
從事ス

#### 第四章 行務

第三十三條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ  
據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條 會計ノ検査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ執行ス

第一 命令官決算ノ檢定

第二 出納官吏計算ノ検査判決

命令官決算ノ檢定ハ總決算各省決算報告書及其ノ證憑書ニ據リ之ヲ執行  
ス

出納官吏計算ノ検査判決ハ各官吏ノ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

右ノ外會計検査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ検査判決ハ其ノ主管者ヨリ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

第三十五條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ及其ノ判決ニ與ルコトヲ得ス

第三十六條 會計検査院ハ検査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書ヲ發付シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條 會計検査院ハ國務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條 審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

第一 不合规ノ件ニ對スル批難

第二 將來ノ措置ニ對スル注意

第三 不明瞭ノ件ニ對スル推問

第三十九條 會計検査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナリト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

検査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之本屬長官ニ通牒シ出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條 出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計検査院ハ其ノ謄本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條 判決書ヲ發シタルトキハ會計検査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ要求スヘシ

第四十二條 會計検査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條 會計検査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左ノ場合ニ限ル

- 第一 計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ
- 第二 脱漏又ハ二重記載アリトスルトキ
- 第三 新ニ證憑書ヲ發見シタルトキ
- 第四 正當ナラサル證憑書ニ據リ判決シタリトスルトキ
- 第五 判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ
- 第四十四條 再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ
- 第四十五條 會計検査院ハ検査上參考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期若ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

○行政裁判所評定官員數並書記ノ員數職務明治二十三年六月 勅令第百一十一號

朕行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 行政裁判所評定官ノ定員ハ十一人トス
- 行政裁判所書記ノ定員ハ十五人トス
- 第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ
- 第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記錄其他庶務ニ従事ス
- 第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ従フ
- 審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ従フ

○貴族院事務局官制明治二十三年七月 勅令第百二十一號

行政裁判所評定官員數並書記ノ員數職務 貴族院事務局官制 四百十五

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

十人

試補

二人

屬

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等

ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○ 衆議院事務局官制 明治二十三年七月  
勅令第百二十二號

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

十人

試補

二人

屬

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其事務ニ從フ

○警視廳

沿革略記

明治七年一月第六號達ヲ以テ警視廳ヲ置キ警視長正權大少警視正權大中少警部ノ職員ト爲シ官等ヲ定ム○同年同月廿七日職制章程并諸規則ヲ定メ省使東京府へ達ス○同年二月第十五號布告ヲ以テ巡查四等ヲ置キ等級ヲ定ム○同年四月八日事務章程第三章中追加ヲ内務省へ達ス○同年十月第三百三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ掌ル○同年同月第三百三十六號達ヲ以テ正權大中警視ノ官等ヲ改正ス○同年十二月第六十八號達ヲ以テ警部補ヲ置ク○八年十二月内務省乙第百六十七號達ヲ以テ東京府所轄ノ囚

獄并懲役場ノ事務ヲ管セシム○九年一月第一號布告ヲ以テ東京府内賣淫取締事務ヲ管ス○十年一月第十五號達ヲ以テ警視廳ヲ廢シ更ニ内務省ニ警視官ヲ置キ尋テ警保局ヲ置ク○十四年一月第一號達ヲ以テ再ヒ警視廳ヲ置キ本廳巡查本部警察署消防本署監獄署ノ衙署ト爲シ本廳ニ正副總監警視五等等巡查本部ニ正副巡查總長方面監督等警察署ニ一等二等警察使等消防本署ニ正副消防司令長等監獄署ニ正副典獄等ヲ置キ官等ヲ定ム○同年同月第三號達ヲ以テ職制并事務章程ヲ定メ内局及書記第一第二ノ三局并巡查本部警察署消防本署監獄署ヲ幹理ス○十五年六月第三十七號達ヲ以テ職制中ヲ改正シ書記局ヲ廢シ會計局ヲ置ク○十八年七月第三十四號達ヲ以テ警視廳職制並事務章程ヲ改正ス○十九年一月第四號達ヲ以テ官等表へ追加ス○同年二月第九號達ヲ以テ職制中各局ノ課長及警察署長ノ項ヲ改正ス○同年五月勅令第四十二號ヲ以テ官制ヲ定ム○二十年十月勅令第四十九號ヲ以テ官制第四十九條中ヲ删除ス○二十一年十月勅令第六十九號ヲ以テ官制中第三十一條并ニ別表ヲ改正ス○二十二年三月勅令第二十四號ヲ以テ官制中ヲ改正シ新ニ消防機關士ノ項ヲ加フ○二十三年四月勅令第七十四號ヲ以テ警部消防司令看守長消防機關士警部補消防司令補看守副長官等俸給ヲ改正ス



○警視廳官制 明治十九年五月  
勅令第四十二號

朕警視廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

第一條 警視廳ニ左ノ警察官及屬員ヲ置ク

警視總監

警視副總監

一等警視

二等警視

三等警視

四等警視

五等警視

屬

警部

警部補

第一條 警視廳ニ左ノ醫務官ヲ置ク

警察醫長

警察副醫長

警察醫

第三條 警視廳ニ左ノ消防官ヲ置ク (二十二年勅令第二十四號ヲ以テ各項共改正)

消防司令長

消防司令副長

消防司令

消防司令補

消防機關士

第四條 警視廳ニ左ノ監獄官及屬員ヲ置ク

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第五條 總監ハ一人勅任一等又ハ二等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ總轄ス

第六條 總監ハ高等警察ノ事務ニ付テハ直ニ内閣總理大臣ノ指揮ヲ承ケ其他各大臣ノ主務ニ關スル警察事務ニ付テハ直ニ各大臣ノ指揮監督ヲ承ケ第七條 總監ハ府下ノ警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ警察令ヲ發スルコトヲ得但東京府知事所掌ノ事務ト交

涉スルモノハ府知事ト協議ヲ經連署ヲ以テ之ヲ發スヘシ

第八條 總監ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第九條 總監ハ其主任ノ事務ニ付テハ府下ノ郡區長及戶長ヲ指揮ス

第十條 總監ハ内務大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルニアラサレハ局本署部及方面ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外更ニ奏任官ヲ增加スルコトヲ得ス本署ヲ除クノ外各署及局中諸課ノ廢置分合ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 總監ハ俸給豫算定額内ニ於テ其應限リ定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得

第十二條 總監ハ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 總監ハ每會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須

要ニ依リ使用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 總監ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第十五條 總監ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ局署部ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 副總監ハ一人奏任一等トス總監ノ事務ヲ佐ク總監事故アルトキハ内務大臣ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第十八條 警視ハ奏任トス二等ヨリ六等ニ至ル總監ノ指揮監督ヲ承ケ局又ハ署ニ就キ其主務ヲ掌理ス

第二十三年勅令  
第三十七號  
以テ判任官  
第六等トス  
職令ハ第十九  
號ニ載ス  
以下依之

第十九條 屬ハ判任トス一等ヨリ「十等」ニ至ル上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ヲ掌ル

第二十條 警部ハ判任トス警視ノ指揮監督ヲ承ケ所屬ノ警部補及巡查ヲ指揮シ其主任ニ屬スル警察事務ニ從事ス

警部補ハ判任トス警部ノ職掌ヲ佐ク

第二十一條 警察醫長ハ奏任二等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ警察ニ關スル醫務ヲ掌理ス

第二十二條 警察副醫長ハ奏任五等又ハ六等トス醫長ノ職掌ヲ佐ク醫長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第二十三條 警察醫ハ判任トス一等ヨリ「十等」ニ至ル醫長ノ命ヲ承ケ診療分析解剖等ニ從事ス

第二十四條 消防司令長ハ奏任二等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ消防本署ノ長トナリテ所屬員ヲ統率シ火水消防ノ事務ヲ掌理ス

第二十五條 消防司令副長ハ奏任五等又ハ六等トス司令長ノ職掌ヲ佐ク司令長事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十六條 消防司令ハ判任トス司令長ノ命ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス(十二年勅令第二十四號ヲ以テ本項改正)

消防司令補ハ判任トス消防司令ノ職掌ヲ佐ク(二十二年勅令第二十四號ヲ以テ本項改正)  
消防機關士ハ判任トス蒸汽唧筒ノ運用ヲ掌ル(二十二年勅令第二十號ヲ以テ本項追加)

第二十七條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス總監ノ命ヲ承ケ未決已決各囚監獄ヲ管理シ書記看守長以下ノ諸員ヲ指揮監督ス

第二十八條 副典獄ハ判任トス二三等ヨリ五等ニ至ル典獄ノ職掌ヲ佐ク典獄事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十九條 書記ハ判任トス二六等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ承ケ書記簿記及計算ニ從事ス

第三十條 看守長ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ヲ看守シ看守ヲ指揮ス

二十三年勅令  
第三十七號  
以テ判任官  
等俸給中改  
正該令ハ第十  
九類ニ載ス

二十三年勅令  
第七十四號  
以テ警部補  
司令守長  
消防機關士  
等俸給中改  
正該令ハ第十  
九類ニ載ス

看守副長ハ判任トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第三十一條 警部警部補消防司令消防司令補看守長消防機關士看守副長ノ

官等月俸ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ總監便宜之ヲ増減スル  
ヲ得但一等上級俸ヲ受タル者特別増俸ノ場合ハ判任官官等俸給令ニ依  
ル(二十一年勅令第六十九號及二十  
二年勅令第二十四號ヲ以テ改正)

第三十二條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十三條 警視廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ書記局第一局第二局第三局會計  
局警察本署醫務部消防本署及監獄本署ヲ置ク

第三十四條 各局ニ局長局次長一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ但局長アレ  
ハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ

局中課ヲ設ケ各課ニ課長一人及課僚若干員ヲ置キ屬警部又ハ警部補ヲ以  
テ之ニ充ツ

第三十五條 局長又ハ局次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ局中各課ノ

事務ヲ指揮ス

課長ハ局長又ハ局次長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス課僚ハ課長ノ指揮ヲ承ケ主務ニ従事ス

局長及局次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ局長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ局次長其職務ヲ代理ス

第三十六條 各本署ニ本署長本署次長一人ヲ置キ警視消防官又ハ典獄官ヲ以テ之ニ充ツ本署長アレハ本署次長ヲ置カス本署次長アレハ本署長ヲ置カサルコトアルヘシ

本署長本署次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス本署長及本署次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ本署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ本署次長其職務ヲ代理ス

第三十七條 部ニ部長副部长一人ヲ置キ醫務官ヲ以テ之ニ充ツ但部長アレハ副部长ヲ置カス副部长アレハ部長ヲ置カサルコトアルヘシ

部長及副部长ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス部長及副部长ヲ併セ置クノ場合ニ於テ部長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ副部长其職務ヲ代理ス

第三十八條 局署部ニ於テ特別ノ職員ヲ置クモノハ其局署部ニ就テ之ヲ定ム

第三十九條 書記局ニ職員課文書課往復課及記録課ヲ置キ本廳ノ庶務ヲ分掌セシム

- 一、職員課ハ本廳職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事ヲ掌ル
  - 二、文書課ハ諸文案ヲ起草シ及之ヲ審査スルコトヲ掌ル
  - 三、往復課ハ公文書類及電信ノ接受及發送ノ事ヲ掌ル
  - 四、記録課ハ公文書類ノ編纂保存統計製圖及書籍管守ノ事ヲ掌ル
- 第四十條 書記局ニ參事官五人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充テ總監ノ諮問ニ應シ意見ヲ述ヘ及審議立案ノ事ヲ掌ラシム

第四十一條 第一局ニ第一課第二課第三課第四課及第五課ヲ置キ行政警察

- ニ關スル事務ヲ分掌セシム
- 一、第一課ハ諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項ヲ掌ル
- 二、第二課ハ演藝遊觀場遊戲場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項ヲ掌ル
- 三、第三課ハ船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事ヲ掌ル
- 四、第四課ハ人命痲傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺流失物埋藏物ニ關スル事ヲ掌ル
- 五、第五課ハ傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事ヲ掌ル
- 第四十二條 第二局ニ第一課第二課ヲ置キ司法警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

- 一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル
- 二、第二課ハ失踪者風癩者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事ヲ掌ル
- 第四十三條 第三局ハ政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關シ高等警察ノ事務ヲ掌ル
- 第四十四條 會計局ニ出納課検査課及用度課ヲ置キ本廳及所轄廳ノ會計營繕用度ニ關スル事務ヲ分掌セシム
- 一、出納課ハ本廳及所轄廳ノ經費豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓及計算表調整ノ事ヲ掌ル
- 二、検査課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ検査スル事ヲ掌ル
- 三、用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事ヲ掌ル
- 第四十五條 警察本署ハ各警察署ヲ統轄シ巡邏查察警衛及警備ノ事ヲ掌ル警察本署ニ事務員ヲ置ク警視二人警部以下ヲ以テ之ニ充ツ

事務員ハ本署長ノ命ニ依リ本署ノ主務ヲ分掌ス

第四十六條 府下警察事務ヲ監督スル爲ニ第一方面第二方面第三方面第四方面第五方面第六方面ニ分テ須要ニ從ヒ各方面ノ區域内ニ警察署ヲ置ク

第四十七條 各方面ニ方面監督一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ

第四十八條 方面監督ハ總監又ハ本署長ノ命ヲ承ケ主任方面内ヲ巡廻シ警察ノ事務ヲ監督ス又臨時命ヲ承テ署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第四十九條 警察署ハ其所轄ノ區域内ニ於テ警察事務ヲ掌理シ各署ニ署長一人ヲ置キ三等以下ノ警視ヲ以テ之ニ充ツ(二十年勅令第四十九號ヲ以テ本條中刪除)

第五十條 署長ハ其主任ノ警察事務ニ付テハ總監又ハ本署長ノ指揮監督ヲ承ク

署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ上席警部其職務ヲ代理ス

第五十一條 醫務部ハ警察ニ關スル診療解剖分析其他醫務ニ關スル事ヲ掌ル

第五十二條 消防本署ハ水火消防ニ關スル事務ヲ掌ル

各區ニ消防分署ヲ配置シ本署ノ管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置ク消防司令ヲ以テ之ニ充ツ

第五十三條 監獄本署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌リ本署ノ下分署ヲ置キ其管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置キ典獄又ハ副典獄ヲ以テ之ニ充ツ

(別表本表ハ二十三年勅令第七十四號ニテ消滅該勅令參看第十九類ニ載ス)

○北海道廳 附開拓使

沿革略記

明治元年四月十二日函館裁判所ヲ置キ蝦夷開拓事務ヲ管ス  
○同年閏四月十二日函館裁判所ヲ改メテ箱館府ト爲ス○二年七月八日開拓使ヲ置キ職制ヲ定メ職員ヲ長官次官正權判官正權

大少主典、史生ト爲ス○同年同月十三日長官ノ官等ヲ諸省卿同等ト爲ス○同年同月二十日官位相當表ヲ改ム○同年同月廿四日箱館府ヲ廢ス○同年八月十五日蝦夷地ヲ北海道ト稱シ十一ヶ國八十五郡ヲ置ク○同年同月某日海關ヲ函館、手宮、壽都、幌泉ノ四所ニ置ク○三年二月十三日樺太ニ開拓使ヲ置ク○同年三月十二日各地方ニ在ル函館產物會所ヲ管ス○同年四月五日正權監事ヲ置ク○同年七月某日北海道產物取締所ヲ那珂、下關、撫養、新潟、石卷等ノ地ニ置ク○同年閏十月九日函館病院ヲ大學東校ニ屬ス○同年同月十一日東京ニ出張所ヲ置ク○同年同月十七日北海道產物取締所ヲ廢ス○四年七月某日事務權限ヲ定ム○同年八月七日樺太開拓使ヲ本使ニ併ス○同年同月十日官等ヲ改定ス○同年十一月十四日官園ヲ東京ニ設ク○五年正月第十六號ヲ以テ官等表ヲ改定ス○同年六月第九十號ヲ以テ室蘭厚岸ニ海關ヲ設ケ幌泉海關ヲ廢ス手宮海關ヲ小樽港ト改稱ス○同年八月第二百三十四號ヲ以テ官等表ヲ改メ長官、次官、大少判官、正權幹事、正權大、中少主典ト爲ス○同年九月十四日函館根室、宗谷、浦河、樺太ニ支廳ヲ置ク○同年同月二十日假ニ學校ヲ東京芝山内ニ設ク○同年同月第二百八十九號ヲ以テ渡島國江差港ニ海關ヲ置ク○六年二月十五日松前ニ出張所ヲ置ク○同年同月二十五日宗谷支廳ヲ留萌郡ニ移シ留萌支廳ト改稱ス○七年五月十四日浦河支

廳ヲ廢ス○同年十月第三百三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ管ス○同年同月第三百三十九號達ヲ以テ遞卒長、遞卒檢官、五等及遞卒部長ヲ置キ官等ヲ定ム○八年三月第三十七號布告ヲ以テ北海道屯田憲兵ヲ設ケ職員ヲ准陸軍大、中少佐、大、中少尉等ト爲シ官等ヲ定ム○同年同月十三日留萌支廳ヲ廢ス○同年同月十五日開拓使達ヲ以テ屯田事務局ヲ置ク○同年八月七日在東京開拓使學校ヲ札幌ニ移ス○同年同月十五日函館稅關事務ヲ大藏省ニ屬ス○同年十一月第六十四號布告ヲ以テ樺太島ヲ魯西亞國ニ屬シ、シリル島ヲ我國ニ屬ス○同年同月第八十號布告ヲ以テ魯西亞國ト交換ノケリル諸島ヲ管ス○同年十二月第二百十七號達ヲ以テ十一月二十五日職制及事務章程改定ノ旨ヲ示ス○九年二月第十號達ヲ以テ遞卒長以下ノ官名等級ヲ改メ警部、警部補、巡查等ト爲ス○十年一月第四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ改ム○同年同月第二十三號達ヲ以テ正權大、中少判官、幹事並主典以下ヲ廢シ正權大、少書記官、屬官及警部十等巡查四等ヲ改メ置ク准陸軍武官故ノ如シ○同年八月第五十六號ヲ以テ准陸軍少尉試補ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定ス○十五年二月第八號布告ヲ以テ開拓使ヲ廢シ函館、札幌、根室、三縣ヲ置ク○十九年一月第一號布告ヲ以テ函館、札幌、根室、三縣並北海道事務管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳



ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク○同年同月第六號達ヲ以テ北海道廳官制ヲ定メ長官理事官屬ノ職員并警部長警部警部補ノ警察官郡區長郡區書記ノ郡區官正副典獄書記看守長ノ監獄官技長技手ノ技術官及農學校長幹事教授助教ノ學務官ト爲ス○同年十二月閣令第三十七號ヲ以テ函館根室支廳ヲ廢ス○同年同月勅令第八拾三號ヲ以テ北海道廳官制ヲ改正ス○同年同月勅令第八十四號ヲ以テ札幌農學校官制中改正○同年二月勅令第九號ヲ以テ官制中改正○同年八月勅令第一百五號ヲ以テ札幌農學校官制中改正○同年十二月閣令第二十九號ヲ以テ北海道鐵道事務所官制ヲ廢ス○二十三年七月勅令第九十九號ヲ以テ北海道廳官制ヲ改正ス

○北海道廳官制明治二十三年七月

朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人

理事官 三人

參事官 二人

技師 十三人

技師試補 三人

屬 百五十人

技手 八十人

警部警部補 四十二人

第二條 北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク

郡長 二十人

區長 二人

郡書記 百三十人

北海道廳官制

區書記

三十人

第三條 北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク

典獄

六人

副典獄

六人

書記

六十二人

看守長

百五人

監獄醫

十五人

第四條 長官ハ勅任トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政及警察ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第五條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス

第六條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ應令ヲ發スルコトヲ得

第七條 應令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止スルコトアルヘシ

第八條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團長及屯田兵司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得  
第九條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條 長官ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 長官ハ一週年末ニ其應豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀

シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 長官ハ毎年所轄事業ノ情況及其處務ノ方法並功程ヲ具ヘ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 長官ハ一郡若クハ數郡及每區ニ警察署ヲ置キ郡區長ヲ以テ署長ニ充テ管内一切ノ警察ヲ掌ラシメ又各警察署ノ部内ニ於テ警察分署ノ配置分合ヲ定ムヘシ

第十五條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 理事官ハ奏任トス長官ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ掌理ス長官事故アルトキハ上席理事官其職務ヲ代理ス

第十七條 參事官ハ奏任トス長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

參事官ハ臨時命ヲ受ケ各部ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第十八條 技師ハ奏任トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ各其技術ニ従事ス

第十九條 技師試補ハ長官ノ指命スル所ニ從ヒ職務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス

第二十條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ各庶務ニ従事ス

第二十一條 技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第二十二條 警部ハ判任一等以下五等以上トシ警部補ハ判任六等トス長官又ハ警察署長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十三條 郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置キ奏任四等以下トス長官ノ命ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ兼テ郡區警察署長ト爲リ警部警部補ヲ指揮監督ス

第二十四條 郡區書記ハ判任三等以下トス郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ニ従事ス

第二十五條 典獄ハ奏任三等以下判任二等以上トス長官又ハ部長ノ命ヲ承

ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮監督ス

第二十六條 副典獄ハ判任一等以下四等以上トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十七條 書記ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ各庶務ニ従事ス

第二十八條 看守長ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ

看守ヲ指揮ス

第二十九條 監獄醫ハ判任トス典獄ノ命ヲ受ケ監獄ニ係ル醫務ニ従事ス

第三十條 北海道廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ左ノ各部ヲ置キ理事官ヲ以テ部

長ト爲ス

第一部

一 職員ノ進退文書ノ往復ニ關スル事項

二 官印廳印ノ管守ニ關スル事項

三 記録編輯統計報告ニ關スル事項

四 學務衛生社寺ニ關スル事項

五 警察監獄ニ關スル事項

六 兵事戶籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項

七 外國人ニ關スル事項

八 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

一 農工商務ニ關スル事項

二 地理山林ニ關スル事項

三 水陸運輸ニ關スル事項

四 漁獵ニ關スル事項

五 河港堤防道路鐵道橋梁排水溝渠ニ關スル事項

六 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項

第三部

- 一 金銀物品ノ管理出納ニ關スル事項
  - 二 豫算決算ニ關スル事項
  - 三 國稅地方稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 第三十一條 各部中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス
- 課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ
- 第三十二條 地方官官制中警察官及郡區官ニ係ル條項本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區官ニモ之ヲ適用ス

○ 札幌農學校官制 明治十九年十二月勅令第八十四號  
 朕札幌農學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

札幌農學校官制

第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農工ニ關スル學術技藝ヲ教授スル所トス

本校ハ生徒中ヨリ屯田兵士官出身志願ノ者ヲ選定シ軍事ニ關スル學術技藝ヲ教授ス(二十二年勅令第五百五號ヲ以テ本項追加)

第二條 札幌農學校ノ各專門學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條 札幌農學校ニ職員ヲ置クニト左ノ如シ

- 校長
- 幹事
- 教授
- 助教
- 訓導

舍監

書記

第四條 校長ハ一人奏任トス北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ總轄シ幹事以下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 教授八人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル(二十二年勅令第四號ヲ以テ改正)

第七條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第八條 訓導ハ判任トス農工ノ實業ヲ授クルコトヲ掌ル

第九條 舍監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ命ヲ承ケ生徒及校舍ニ關スル事務ヲ掌ル

務ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○府縣

沿革略記

明治元年閏四月廿一日地方ヲ府藩縣ノ三治ニ分テ府縣ニ知府事、正權判府事ヲ置キ縣ニ治縣事、判縣事ヲ置キ藩ハ姑ク舊ニ仍ル  
○同年十月廿八日藩治職制ヲ定メ執政、參政、公議人及家知事ヲ置ク  
○同年十二月廿三日縣官ヲ假定シ權知縣事、權判縣事及關役、書記、筆生、捕亡ヲ置ク  
○二年六月十七日藩ニ知藩事ヲ置ク  
○同年七月八日府縣ニ知事、正權大少參事、縣ニ知事大少參事ヲ置キ職員令ヲ定ム  
○同年同月某日府縣奉職規則ヲ定ム  
○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ縣ニ權知事及府縣ニ正權大少屬并史生ヲ置ク  
○同年十二月八日府縣ニ正權典事ヲ置ク  
○三年九月十日藩制ヲ釐革シ分テ大中小ノ三等ト爲シ以上中階一萬石以上小階知事、正權大正參事、正權大少屬、史生、廳掌、使部ヲ置キ職制ヲ定ム  
○同年九月十三日府縣ニ廳掌ヲ置ク  
○四年正月廿二日縣ニ權大參事ヲ置ク  
○同年七月十四日從前ノ諸藩ヲ廢シテ更ニ縣ヲ置ク  
○同年十一月二日縣知事ヲ縣令ト改稱ス  
○同年同月廿二日府縣ノ制ヲ改メ三府七十二縣ト爲ス是ニ於テ郡縣ノ制始テ定マル  
○同年同月廿七日府縣官官等ヲ更定シ府ニ正權知

事縣ニ正縣令及府縣ニ正權參事典事大少屬等ヲ置キ開港場アル縣令ハ勅任トス是日又縣治條例及事務章程ヲ定ム○同年十二月三日開港場アル權知事ヲ勅任トス等級故ノ如シ○同年同月十九日府縣奉職規則ヲ廢ス○同年同月廿三日府縣掌事ヲ置キ等級ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ府縣官官等ヲ改定ス○同年三月大藏省第三十三號ヲ以テ府縣典事或ハ屬員ノ内一人郵便御用掛ヲ兼務セシム○同年四月大藏省第五十一號ヲ以テ府縣郵便御用掛事務心得方ヲ定ム○同年同月第十七號ヲ以テ庄屋名主年寄ノ稱ヲ廢シ更ニ正副戶長ヲ置ク○同年九月第二十九號ヲ以テ七尾縣ヲ廢シ石川新川兩縣ニ分屬ス○同年同月第二十九號ヲ以テ犬上縣ヲ廢シ滋賀縣ニ併ス○同年十一月第三十七號ヲ以テ額田縣ヲ廢シ愛知縣ニ併ス○六年一月第十二號ヲ以テ足羽縣ヲ廢シ敦賀縣ニ併ス○同年同月第十四號ヲ以テ八代縣ヲ廢シ白川縣ニ併ス又第十五號ヲ以テ美々津都城ノ二縣ヲ廢シ宮崎縣ヲ置ク○同年二月第五十九號ヲ以テ香川縣ヲ廢シ名東縣ニ併ス又第六十號ヲ以テ神山石鏡ノ二縣ヲ廢シ更ニ愛媛縣ヲ置ク○同年六月第九十七號ヲ以テ柏崎縣ヲ廢シ新潟縣管理ト爲ス○同年同月第二十四號ヲ以テ宇都宮縣ヲ廢シ栃木縣ニ併セ印旛木更津入間群馬ノ四縣ヲ廢シ更ニ千葉熊谷ノ二縣ヲ置ク○同年同月第二十五號ヲ以テ各地方選卒又ハ

取締組捕亡吏等ノ名稱ヲ以テ其實番人ノ職ヲ奉シ居ル類ハ都テ番人ト改稱ス○同年八月第二十八號ヲ以テ府縣ノ正權典事ヲ廢シ更ニ正權大中屬ヲ置キ官等ヲ定ム少屬以下ハ舊ニ依ル○同年十月第三百四十五號ヲ以テ府縣官大屬以下ノ職掌ヲ改定ス○同年十二月第三百九十七號ヲ以テ縣治條例中租稅出納兩課ノ職掌ヲ改定ス○七年三月第二十八號達ヲ以テ區戶長ヲ以テ官吏ニ準シ假ニ其等級ヲ定ム○同年五月十五日各地方警察番人等ヲ官吏トス○同年同月第六十六號達ヲ以テ學區取締ヲ準官吏ト爲ス○同年八月三日御陵墓アル府縣ニ陵墓掌陵墓丁ヲ置ク○同年十月第三百三十二號達ヲ以テ司法警察事務ヲ管ス○八年二月第二十五號達ヲ以テ府縣五等六等ノ等外吏ヲ廢ス○同年三月第二十九號達ヲ以テ行政警察規則ヲ定メ府縣ノ捕亡吏取締組番人等ヲ廢シ改テ選卒ト稱ス○同年四月縣治條例中ヲ改正ス○同年五月第七十六號布告ヲ以テ新治縣ヲ廢シ千葉茨城兩縣ニ分屬ス○同年同月第九十一號達ヲ以テ縣治條例中ヘ追加ス○同年六月第九號達ヲ以テ選卒ヲ準等外トス○同年七月第二百二十二號達ヲ以テ縣治條例中窮民一時救助規則ヲ廢シ更ニ窮民一時救助規則ヲ定ム○同年九月第三百三十六號布告ヲ以テ名東縣ヲ分割シテ香川縣ヲ再置ス○同年十月第五百五十八號布告ヲ以テ府縣ニ警部六等ヲ置キ官等ヲ定メ第三百八十一號達ヲ以テ職制ヲ設ク尋

ヲ第百八十二號達ヲ以テ逕卒ヲ改メテ巡查ト稱シ等級月俸ヲ定ム  
 ○同年十一月第二十三號達ヲ以テ縣治條例ヲ廢シ府縣職制事務章  
 程ヲ定ム○同年十二月第九十一號布告ヲ以テ小田縣ヲ廢シ岡山  
 縣ニ併ス○九年二月第十號布告ヲ以テ東京府ノ外各府縣ニ七等警  
 部ヲ置ク○同年同月第十六號達ヲ以テ府縣事務章程中ヲ改正ス○  
 同年四月第五十三號布告ヲ以テ足柄奈良度會磐井新川相川北條濱  
 田小倉佐賀ノ十縣ヲ廢シ各近接諸縣ニ分屬ス○同年五月第五十一  
 號達ヲ以テ府縣事務章程中へ追加ス○同年同月第七十二號布告ヲ  
 以テ開港場アル縣令ノ勅任官タルコトヲ廢シ一般奏任官トス尋テ  
 第八十九號布告ヲ以テ開港開市場アル府ノ權知事ヲ同様にナス○  
 同年七月第七十二號達ヲ以テ縣官任期例ヲ定ム○同年八月第十  
 二號布告ヲ以テ筑摩濱松若松磐前鶴ヶ岡置賜教賀鳥取備前豐岡三  
 浦宮崎香川名東ノ十四縣ヲ廢シ其近接ノ府縣ニ分屬ス○十年一月  
 第六號達ヲ以テ府縣正權知事正權令等級月俸ヲ定メ參事以下ヲ廢  
 シ大少書記官屬官十等等外吏四等ヲ改置ス○同年同月第十一號達  
 ヲ以テ東京府ノ外各府縣警部以下ヲ改置シ警部十等巡查四等ト爲  
 シ等級ヲ定ム○十一年七月第十七號布告ヲ以テ郡區町村編制法ヲ  
 定メ每郡區ニ郡長區長ヲ置キ每町村ニ戶長ヲ置ク○同年同月第三  
 十二號達ヲ以テ府縣職制並事務章程ヲ廢シ更ニ府縣官職制ヲ定メ

府ニ知事縣ニ令府縣ニ大少書記官屬官十等警部十等及郡長郡書記十等  
 ノ職員ト爲ス○同年八月第三十五號達ヲ以テ縣官任期例ヲ改メ府  
 縣官任期例ヲ定ム○同年十一月第四十八號達ヲ以テ勅任ノ府知事  
 縣令ハ三等官ニ定ム○十二年四月第十四號布告ヲ以テ琉球藩ヲ廢  
 シ沖繩縣ヲ置ク○同年十二月廿六日號外達ヲ以テ府縣官任期例中  
 書記官屬官ニ係ル二項ヲ廢ス○十三年三月第六號布告ヲ以テ愛媛  
 縣ヲ割テ德島縣ヲ置ク○同年十一月第六十二號達ヲ以テ府縣官職制  
 中ニ追加ス○十四年二月第三號布告ヲ以テ滋賀石川兩縣ノ内ヲ割  
 テ福井縣ヲ置キ探縣ヲ廢シ大阪府ニ併ス○同年三月第十五號達ヲ  
 以テ府縣官中ニ典獄書記看守長看守ヲ置キ官等月俸ヲ定メ尋テ第  
 十六號達ヲ以テ職制ヲ定ム○同年九月第四十二號布告ヲ以テ島根  
 縣ヲ割テ鳥取縣ヲ置ク○同年十一月第九十八號達ヲ以テ府縣官中  
 ニ警部長ヲ置キ官等月俸ヲ定メ尋テ第九十九號達ヲ以テ職制ヲ定  
 ム○同年十二月第十一號達ヲ以テ警部巡查ノ等級ヲ廢シ更ニ俸  
 給ヲ定ム○十五年二月第八號布告ヲ以テ開拓使ヲ廢シ函館札幌根  
 室ノ三縣ヲ置ク○十六年一月第二號達ヲ以テ府縣ニ兵事課ヲ置ク  
 ○同年二月第十號達ヲ以テ府縣官職制中郡長ノ項ヲ改正ス○同年五  
 月第十五號布告ヲ以テ石川長崎鹿兒嶋ノ三縣ヲ分割シテ更ニ富山  
 佐賀宮崎ノ三縣ヲ置ク○十七年二月第十六號達ヲ以テ府縣官職制



中追加シ尋テ第十七號達ヲ以テ府縣官任期例ヲ廢ス○同年五月第  
 四十七號達ヲ以テ府縣官中收稅長收稅屬ヲ置キ官等俸給ヲ定メ尋  
 テ第四十八號達ヲ以テ職制ヲ定ム○十八年七月第三十九號達ヲ以  
 テ府縣官職制中收稅長ノ職制ヲ更定ス○同年十二月第六十五號達  
 ヲ以テ府并開港場鎮臺控訴裁判所アル縣ノ警部長ノ官等ヲ七等八  
 等ニ區別ス○十九年七月勅令第五十四號ヲ以テ地方官官制ヲ定ム  
 ○同年同月勅令第五十五號ヲ以テ地方官官等俸給令ヲ定ム○二十  
 年四月閣令第十號ヲ以テ地方衛生會規則ヲ定ム○同年十一月勅令  
 第五十九號ヲ以テ大阪府ヲ分割シテ奈良縣ヲ置ク○二十一年十二  
 月勅令第七十九號ヲ以テ愛媛縣ヲ分割シテ香川縣ヲ置ク○二十二  
 年五月勅令第六十三號ヲ以テ各郡市役所所在地ニ府縣收稅部出張  
 所ヲ設ケ取扱事務ヲ定ム○同年十二月勅令第三百三十六號ヲ以テ地  
 方官官制中追加○二十三年六月勅令第八十八號ヲ以テ地方官ヲシ  
 テ御料地ヲ管理セシム

○地方官官制明治十九年七月  
 勅令第五十四號

朕地方官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

府縣

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事

書記官

收稅長

屬

收稅屬

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第二條 知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政及警察ノ事務ヲ總理ス但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコトヲ得

第三條 知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條 府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効カフルモノトス

第五條 府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラル、コトアルヘシ

第六條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ〔鎮臺〕若クハ營所ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 知事ハ各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定ム

第十條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十一條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 知事ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支辨スヘ

キ事業ノ經費内ニ於テスルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使  
用スルコトヲ得

第十四條 書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリテ其  
所部ノ事務ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十五條 收稅長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收  
及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス

第十七條 收稅屬ハ判任トス收稅部ニ屬シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從  
事ス

第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ニ關  
スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故ア  
ルトキハ其職務ヲ代理ス

二十三年勅令  
第三十七號  
以テ判任官  
俸給令中改  
正該令並舊  
十九號ニ載  
ス以下依之

二十三年勅令  
第七十四號  
以テ看守長  
判任官四等  
ハ判任官五  
等トシテ  
守副長ハ判  
任官六等ト  
シテ其  
官俸令第三  
十號  
七號  
七號  
ヲシテ  
ラシム  
類  
シ  
テ  
依  
之

第二十條 書記ハ判任二六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條 看守長ハ判任二五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守  
ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

第二十二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第二十三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一部第二部ヲ置キ部中便  
宜課ヲ設ケ書記官ヲシテ各一部ノ長タラシム

第一部

一、府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項

二、地方稅區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項

三、外國人ニ關スル事項

四、文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ管守スル事

五、農工商務ニ關スル事項

六 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第一部

- 一、土木ニ關スル事項
- 二、兵事ニ關スル事項
- 三、學務ニ關スル事項
- 四、監獄ニ關スル事項
- 五、衛生ニ關スル事項
- 六、會計及公債證書ニ關スル事項

第二十五條 前條ノ外府縣廳中ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設クルハ第二十四條ノ例ニ依ル

第二十六條 前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定ムコトヲ得

警察官

第二十七條 各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第二十八條 警部長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ左ノ職務ヲ掌ル

但京都府大阪府及開港場師團控訴院アル縣ノ警部長ハ奏任二等ニ陞ルコトヲ得(二十二年勅令第百三十一號ヲ以テ但昔ヲ加フ)

- 一、管内高等警察ノ事
- 二、管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務ヲ整理スル事
- 三、管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮スル事



命ヲ承ケ其職務ヲ執行スヘシ

第三十三條 警察官ハ總テノ場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲ストキハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモ  
ノトス

第三十四條 他府縣ヨリ警察ノ事務ニ關スル照會ハ必ス知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ警部長又ハ其事ノ執行ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得

第三十五條 巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十六條 東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依リ本令中ノ條項ニ指定スル限ニアラス

郡區

第三十七條 每郡若クハ數郡ニ郡長一人每區ニ區長一人及書記若干人ヲ置  
ク

勅令第四十二號  
警視廳官制  
ハ本類ニ載ス

第二十八條 郡區長ハ奏任四等以下書記ハ判任三等以下トス

第二十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル事件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得

第四十一條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戸長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條 郡區長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル條件ニ付部内一般ニ告示スルコトヲ得

第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セ  
シムルコトヲ得

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

二十九年開令第  
二十八號ヲ以  
テ東京府管下  
小笠原島三島  
一府管下島根  
縣管下島根國  
島司ヲ設ケ

島地

第四十六條 長崎縣鹿兒島縣其他今後指定セラルヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置  
キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ  
得

第四十七條 島司ハ奏任三等以下トス

○地方官御料地ヲ管理ス明治二十三年六月  
勅令第八十八號

朕地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

地方長官ハ宮内大臣ノ委託ニ由リ御料地ヲ管理スヘシ其管理ニ係ル費  
用ハ皇室ノ支辨トス

○稟請ヲ要セス處分ノ後報告スヘキ條件十九年三月  
內務省令第一號  
自今左ニ掲ル條件ハ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ但報告期限ハ  
別ニ之ヲ定ム

- 一 恤救規則心得第八條一家救人救助ノ事
- 一 國縣道道幅取廢ノ事
- 一 社寺由緒アル地所建物處分ノ事
- 一 社寺創立再興等建設延期ノ事
- 一 地租改正以前ヨリ人民ノ埋葬シ來リタル官有墓地ヲ民有墓地ニ組替  
ル事
- 一 耕宅地ニ非サル民有地ヲ斃牛馬捨場ニ撰定シ及之ヲ廢スル事
- 一 廢合神社跡地ヲ明治八年乙第百十三號達ニ準シ處分スル事
- 一 民股ノ用悪水路堤塘溜池井溝ヲ官有地ニ組換並ニ明治九年乙第八十  
一號達同十六年乙第四十五號達ニ依リ代地ヲ下ケ渡ス事
- 一 官有市街地ヲ明治十三年太政官第六號達ニ依リ公立小學校公立中學  
校公立專門學校敷地ニ附與スル事
- 一 人民ノ願ニ依リ土地建物ノ密附ヲ許可シ其土地ヲ官有ニ組替ル事
- 一 官有ノ湖沼池等埋立ノ事
- 一 但工事ノ一町歩以上ニ涉ルモノハ此限ニアラス
- 一 素地相當代價ノ既定セル開墾地ヲ拂下ル事

但河川ノ寄洲川沿ニ係ル地所ハ此限ニアラス  
 一 土石砂利ヲ掘取及拂下ル事  
 但修路治水ニ審アルヘキモノハ此限ニアラス  
 一 地方税ノ經濟ニ於テ土地建物ヲ買上及拂下ル事  
 一 阿片賣買特許藥舖鑑札下付ノ事  
 一 阿片製造鑑札下付ノ事  
 一 劇藥配伍ノ賣藥許否ノ事  
 一 避病院開設ノ事  
 一 檢疫委員設置ノ事  
 一 養魚其他殖産ノ爲メ官有池沼ヲ貸渡ス事  
 一 社寺境内一時貸下ノ事  
 一 府縣官舎ノ内官宅警察署郡區役所等建築ノ事  
 ○ 地方衛生會規則二十年四月十日  
 地方衛生會規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治十二年四月太政官第五十五號達地方衛生會規則明治十三年四月太政官達東京地方衛生會規則ヲ廢ス

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ  
 會長 府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ  
 委員 府縣第二部長

警部長東京ハ警視廳第一局長  
 府縣廳所在地ノ郡長又ハ區長  
 府縣會常置委員

壹人  
 三人  
 三人乃至五人  
 壹人  
 壹人  
 壹人

獸醫

化學家

臨時委員

書記 府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ  
 第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス  
 第六條 會長事故アルトキハ開會當日上席人ヲ以テ其事務ヲ代理セシ



第七條 委員中東京府京都府大阪府ノ區長及醫師獸醫化學家臨時委員  
 ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲  
 スコトヲ得  
 常置委員ハ常置委員改撰毎ニ該員中ニ於テ互撰シ府縣知事之ヲ命ス  
 第八條 委員中官職ナキ者ニハ手當并ニ旅費ヲ給スルコトヲ得  
 第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

○民部省附民部官

沿革略記 明治元年二月五日内國事務局ヲ置キ督正權輔正權判事等ノ  
 職員ヲ設ケ職制ヲ定ム○同年閏四月二十一日内國事務局ヲ  
 廢ス○同年十一月六日治河使ヲ設シ○二年四月八日民部官ヲ置キ  
 府縣事務ヲ總判セシメ戶籍驛遞橋道水利開墾物產濟貧養老等ノ事  
 ヲ管轄セシム○同年五月三日開墾局ヲ置キ民部官ニ屬ス○同年六  
 月四日民部官職制ヲ定メ聽訟庶務驛遞土木物產ノ五司ヲ管シ本官

ニ正副知官事正權判官事書記等ヲ置キ司ニ知司事正權判司事ヲ置  
 シ○同年七月八日民部官ヲ廢シ民部省ヲ置キ地理土木驛遞ノ三司  
 ヲ管シ本省ニ卿大少輔正權大少丞大少錄等司ニ正權正正權佑等ヲ  
 置キ職制ヲ定ム○同年同月廿七日治河使ヲ廢シ事務ヲ土木司ノ管  
 理ニ屬ス是日民部省規則ヲ定ム○同年八月十一日大藏省中租稅監  
 督通商鑛山ノ四司ヲ民部省ノ管理ニ屬ス○同年同月十二日民部大  
 藏兩省ヲ合併ス○同年同月二十日官位相當ヲ更定ス○三年七月十  
 日民部大藏兩省ヲ分テ民部省ニ土木驛遞鑛山通商聽訟ノ五司及社  
 寺鐵道電信機燈明臺橫須賀製鐵所ノ諸掛ヲ管セシム○同年同月二  
 十一日民部省中地理庶務兩司ヲ置キ通商司ヲ大藏省ニ屬ス○同年  
 閏十月二十日鑛山司并諸掛ヲ廢シ聽訟掛ヲ庶務司中ニ設ク是日寺  
 院寮ヲ置ク○四年正月二十日大藏省所轄ノ牧畜事務ヲ民部省ニ屬  
 ス○同年七月二十七日民部省ヲ廢ス

○教部省附神祇省

民部省沿革 教部省沿革

沿革略記

明治元年二月五日神祇事務局ヲ置キ督正權輔正權判事等ノ職員ヲ設ク職制ヲ定ム○同年閏四月二十一日神祇事務局ヲ廢シ更ニ神祇官ヲ置キ職員ヲ正副知官事正權判官事等ト爲ス○二年四月某日教導局ヲ建ツ○同年七月八日官制ヲ改定シ神祇官ヲ改置シ職員ヲ伯大少副大少祐大少史等ト爲シ宣敎使ヲ置ク尋テ翌月二十日官位相當ヲ更定ス○同年同月九日教導局ヲ廢ス○同年九月十七日神祇官中諸陵寮ヲ置ク○同年同月廿九日宣敎使官員ヲ長官次官正權判官正權大中少宣敎使正權大少主典大中少講議生等ト爲ス○同年十月九日宣敎使ヲ神祇官ニ屬ス○三年四月五日宣敎使中正權大中少宣敎使ヲ改メ正權大中少博士トス○四年八月四日神祇官中大少祐權官并大史以下ヲ廢シ更ニ大中少ノ掌典神部ヲ置ク是日諸陵寮ヲ廢ス○同年同月八日神祇官ヲ改テ神祇省トス○同年九月廿九日省中御巫ヲ置ク○同年十月十七日御巫ヲ改テ正權內掌典ト爲ス○五年三月第八十二號ヲ以テ神祇省ヲ廢シ敎部省ヲ置ク○同年同月第九十二號ヲ以テ祭事祀典事務ヲ式部寮ニ屬ス○同年四月第百三十二號ヲ以テ教導職ヲ置キ敎部省ノ管轄トス○同年同月第百三十六號ヲ以テ音樂歌舞ノ類ヲ管セシム○同年同月第百四十號ヲ以テ神官ヲ管セシム○同年六月敎部省第四號ヲ以テ教導職管長ヲ置カシム○同年八月神官ヲ教導職ニ補ス○同年七月七日敎部省號

外達ヲ以テ教導職幹事ヲ置カシム尋テ名目ヲ管事ヲ改ム○六年二月敎部省第六號ヲ以テ管事ヲ廢ス○九年一月第一號達ヲ以テ敎部省職制章程ヲ改定ス○十年一月第四號布告ヲ以テ敎部省ヲ廢シ事務ヲ內務省ニ付ス

○兵部省

沿革略記

明治元年二月五日軍防事務局ヲ置キ職員ヲ督正權輔正權判事等ト爲シ職制ヲ定ム○同年四月三日裁判所ヲ置ク○同年閏四月二十一日軍防事務局ヲ廢シ軍務官ヲ置キ職制ヲ定メ陸軍海軍ノ二局築造兵船兵器馬政ノ四司ヲ管シ本官ニ正副知官事正權判官事局ニ將三等司ニ知司事正權判司事ト爲ス○同年九月二十五日裁判所ヲ廢ス○同年十一月二日海軍局ヲ東京ニ置ク○同年同月十七日醫學所ヲ東京府ノ管理ニ屬ス○同年同月二十日病院ヲ京都府ノ管理ニ屬ス○同年十二月四日復々病院ヲ管ス尋テ軍務官治療所ト改稱ス○二年正月八日東京市街取締ノ藩兵ヲ管掌ス○同年三月

二十四日外國人護衛ノ別手組ヲ管ス○同年五月二十七日大和國十津川郷ヲ管ス○同年七月某日軍務官治療所ヲ廢ス○同年七月八日軍務官ヲ置シ兵部省ヲ置キ職制官等ヲ定メ兵學寮及武庫會計糺問ノ三司ヲ管シ本省ニ卿大少輔正權大少丞大少錄等寮ニ正權頭正權助正權允等司ニ正權正正權佑等ノ職員ト爲ス是日又海陸軍ヲ設ク○同年八月二十日兵部省官位相當ヲ改正ス○同年十一月二日大阪城ヲ管ス○同年十二月廿日京都ニ出張所ヲ設ク○三年正月十日京城衛成ノ諸藩兵隊ヲ管ス○同年二月二日造兵司ヲ置ク○同年同月十九日陸軍所及ヒ軍事病院ヲ大阪ニ置ク○同年同月二十日京都警衛ノ藩兵ヲ支應ニ隸ス○同年同月二十七日十津川郷ノ管轄ヲ罷ム○同年七月二十四日外國人護衛別手組ヲ東京府ノ管轄ニ屬ス○同年八月七日兵學寮ニ大少教授大中少助教得業生准得業生ヲ置ク○同年九月十八日大中少佐大中少尉ヲ海陸軍ニ正權曹長ヲ陸軍ニ置キ官位相當ヲ定ム○同年閏十月某日兵學寮中准得業生ヲ廢ス○同年十一月四日海軍練所ヲ海軍兵學寮ト改メ大阪兵學寮ヲ陸軍兵學寮ト改ム○四年正月十七日京都出張所ヲ廢ス○同年二月八日禁門ノ警衛ヲ管ス○同年同月十三日御親兵ヲ置キ本省ニ隸ス○同年四月廿三日東山西海兩道ニ鎮臺ヲ置キ本省ニ屬ス○同年七月某日會計司ヲ廢ス○同年同月五日軍醫寮ヲ置ク○同年八月十日官制ヲ釐定

シ兵學軍醫ノ二寮及武庫糺問造兵ノ三司ヲ管シ本省ニ卿大少輔大少丞正權大中少錄寮ニ正權頭正權助正權大中少屬及醫正軍醫同副各二等軍醫試補并大少教授助教得業生司ニ正正權大中少令史ノ職員ト爲ス○同年同月十八日各地ノ城郭ヲ管ス○同年同月某日官制ヲ改革シテ兵部省ヲ陸軍海軍ノ二部ニ分テ兩部ニ秘史軍務會計ノ三局陸軍部ニ砲兵築造ノ二局海軍部ニ造船水路ノ二局ヲ置キ又陸軍海軍ニ各兵學寮ヲ建テ軍醫寮糺問造兵武庫ノ三司海陸軍ニ造船水路ノ二司及水兵部提督府保全港司ヲ海軍ニ參謀局三兵本部ヲ陸軍ニ設ケ東京大阪東北鎮西ノ四管鎮臺ト爲ス○五年正月第十六號ヲ以テ兵部省官等ヲ改正ス○同年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省陸軍省ヲ置ク

○工部省

沿革略記 明治三年閏十月二十日工部省ヲ置キ鑛山製鐵燈明鑛鐵道電信機等ノ事ヲ管シ其職制ヲ定ム○三年十二月十九日鑛山司

ヲ廢シ鐵山掛ヲ置ク○四年四月九日長崎製鐵所ヲ管ス是日橫須賀  
 長崎兩製鐵所ヲ造船所ト改稱シ橫濱製鐵所ヲ製作所ト改稱ス○同  
 年七月廿七日土木司ヲ置ク○同年八月十四日工學勸工鐵山鐵道  
 第一土木燈臺造船電信製鐵製作第二等ノ十寮及測量司ヲ置ク○同年  
 同月二十四日文書會計ノ二局ヲ置ク○同年九月三十日土木寮所轄  
 橋梁ノ事務ヲ大藏省營繕寮ニ屬ス○同年十月八日土木寮ヲ大藏省  
 ニ屬ス○同年十二月十七日各科工術等級ヲ定メ職員ヲ都檢大中少  
 長上中少師大中少手見習ト爲ス○五年正月十三日工學校ヲ設ク○同  
 年十月八日橫須賀造船所橫濱製作所ヲ海軍省ニ屬ス○同年十月第  
 三百十三號ヲ以テ造船製鐵ノ二寮ヲ廢シ製作寮ニ併シ長崎造船所  
 ヲ長崎製作所ト改稱ス○六年十一月第三百九十號ヲ以テ勸工寮ヲ  
 廢シ製作寮ニ併ス○七年一月九日測量司ヲ廢シ事務ヲ內務省ニ屬  
 ス○同年同月二十二日內務省土木寮營繕事務ヲ本省ニ管ス○八年  
 六月第百十二號達ヲ以テ營繕局ヲ置ク○同年十一月第七十七號布  
 告ヲ以テ工學寮ヲ改メテ二等寮ト爲ス○同年同月第七十九號布告  
 ヲ以テ營繕寮ヲ置キ二等寮ト爲ス○同年十二月第二百十七號達ヲ  
 以テ職制章程ヲ改定シ鐵山鐵道第一等燈臺電信製作營繕工學二等ノ  
 七寮ヲ管シ職員ヲ卿大少輔正權大少丞正權大中少錄等ト爲ス○九  
 年十二月第百十四號達ヲ以テ各科工術技長ノ等級ヲ改定ス上師以

下ハ舊ニ依ル○十年一月第三號達ヲ以テ諸寮及正權大少丞並錄以  
 下ヲ廢シ書記官屬官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下  
 ノ等級ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年二月第二十三號達ヲ以テ工  
 術一等級技長以下ヲ廢シ更ニ正權大少技長技手十等ヲ置キ等級ヲ定  
 ム○十二年三月第十六號達ヲ以テ各科工術等級ヲ改メ更ニ技監ヲ  
 置ク○十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制及事務章程ヲ改定シ鐵  
 山鐵道燈臺電信工作營繕會計檢査金庫書記ノ十局ヲ管ス○十四年  
 八月第六十三號達ヲ以テ檢査局ヲ廢ス○同年十一月第九十四號達  
 ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年一  
 月第七號達ヲ以テ各科工術等級并月俸表中ニ追加ス○同年四月第十  
 八號達ヲ以テ各科工術等級并月俸表中ニ追加ス○同年八月第五十一  
 號達ヲ以テ工部大學校職制及職員等級俸給ヲ定ム○十七年一月第  
 十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○同年五月第四  
 十二號達ヲ以テ各科工術等級并月俸表ヲ更正ス○同年十月第八十  
 十七號達ヲ以テ工部大學校職員中助教授ニ奏任ヲ置キ年俸ヲ定ム  
 ○八年十二月第七十號達ヲ以テ工部省ヲ廢シ鐵山工作ノ事務ハ農  
 商務省ニ電信燈臺ノ事務ハ遞信省ニ工部大學校ハ文部省ニ屬シ鐵  
 道事務ハ姑ク內閣ノ直轄ト爲ス

○左院附集議院

沿革略記

明治元年九月十九日議事取調局ヲ置ク○同年十一月十九日  
 議事體裁取調所ヲ置キ諸藩公議人ヲ管ス○同年十二月六日  
 公議所ヲ東京ニ置ク○二年三月十二日待詔局ヲ東京ニ置ク○同年  
 四月十七日議事取調局ヲ廢ス○同年七月八日待詔局ヲ廢シ待詔院  
 ヲ置キ公議所ヲ廢シ集議院ヲ置キ兩院ヲ上下二局ニ分チ集議院職  
 制ヲ定メ長官次官正權判官大少主典等ノ職員ト爲ス○同年八月十  
 日集議院中ニ幹事ヲ置ク○同年同月十五日待詔院下局ノ事務ヲ集  
 議院ニ合ス○同年同月廿日集議院官位相當ヲ改定シ同院規則ヲ定  
 ム尋テ翌月某日新定規則ヲ達ス○四年七月廿九日左院ヲ置キ議長  
 職員ノ職員ヲ設ケ官制等級ヲ定ム○同年八月十日左院官制ヲ改定  
 シ正副議長大中少議官ヲ設ク○同年同月十八日制度局ヲ左院ニ合  
 ス○同年同月廿日集議院ヲ左院ノ管轄ト爲ス○同年十月四日左院  
 中大中少議生ヲ置キ職掌ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ左院官  
 等ヲ改定ス○同年同月第二十二號ヲ以テ左院中正權大中少掌記ヲ  
 置キ官等ヲ定ム○同年十月第三百二號ヲ以テ左院官等ヲ改定シ正

副議長議官五等議生三等書記官三等書記生五等及筆生三等ノ職員  
 ト爲ス○六年六月第二十二十八號ヲ以テ集議院ヲ廢シ事務ヲ左院  
 ニ屬ス○同年同月第二廿九號ヲ以テ左院中議生ヲ廢ス○七年二  
 月十二日正院中法制財務兩課ヲ廢シ事務ヲ左院ニ附ス是日假ニ職  
 制章程ヲ定ム○八年四月第五十九號布告ヲ以テ左院ヲ廢ス

○十九類 官等俸給、旅費

○官等俸給令

沿革略記 明治元年三月假令月給規則ヲ定メ上中下等ノ階級ヲ立テ總  
裁職以下給額ヲ定ム○同年閏四月官等ヲ定メ九等トシ三等  
官以上ヲ勅任五等官以上ヲ奏任六等官以下ヲ判任トシ一等官以下  
官等ヲ定ム○同年五月國事多端ニ因テ暫ク諸官月給ヲ半減ス○同  
年六月月給規則ヲ改正シ且關東平定迄三等以下半額五等以上三分  
一ヲ減給ス○同年十一月行政官ニ錄事ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十  
二月月給渡方定則ヲ定ム○同年同月東北平定ニ付月俸ノ減給セシ  
分ヲ支給ス○二年七月官制ヲ更定シ位階十八階ト爲シ神祇伯左右  
大臣以下官位ヲ定ム○同年八月前令ヲ改正シ官位二十階ヲ立テ從  
四位以上ヲ勅任從六位以上ヲ奏任從九位以上ヲ判任ト爲シ左右大  
臣參議卿以下官位ヲ定ム○同年同月月給ノ制ヲ改メ官祿定則及其  
渡方手續並ニ官祿規則ヲ定ム○同年十月官位ノ階級ニ因リテ官祿  
ヲ支給ス○四年二月等外吏ヲ四等ニ分テ俸祿ヲ定ム○同年八月官  
位相當ノ制ヲ廢シ官等ヲ定テ十五等ト爲シ三等以上ヲ勅任七等以  
上ヲ奏任八等以下ヲ判任トシ大臣參議以下官等ヲ定ム○同年九月

官祿ヲ改正シ月給定則ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ官制ヲ更定シ大臣參議卿以下官等ヲ改ム○五年三月第七十八號ヲ以テ數官兼任ノ者ハ其高キ官ニ依リ月俸ヲ給ス○同年七月第二百十三號ヲ以テ前令ヲ改メ月給ハ給額多キ方ニ依リ支給ス○六年二月第七十五號ヲ以テ任免等全月未滿端日數ノ者月給支給方ヲ定ム○同年十二月第四百十九號ヲ以テ前令ヲ廢シ十五日前後ノ區分ヲ以テ月給ヲ支給ス○七年五月第六十一號達ヲ以テ月俸規則ヲ定ム○同年六月各廳用掛雇出仕ハ其月給ノ等差ニ依リ奏判任等外ヲ區分ス○十年一月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ官等ヲ改正シ判任官以上ヲ十七等トシ俸給ヲ定ム○同年同月第十號達ヲ以テ太政官中四等以下官等ヲ改ムルコト前令ニ同シ○十二年十二月第五十三號達ヲ以テ文官四等以下八等以上ノ月俸ヲ改正ス○十九年三月勅令第六號ヲ以テ高等官官等俸給令ヲ定メ尋テ同年四月勅令第三十六號ヲ以テ判任官官等俸給令ヲ定ム○二十三年三月勅令第三十六號ヲ以テ高等官官等俸給令中ヲ改正ス○同年同月勅令第三十七號ヲ以テ判任官官等俸給令中ヲ改正シ判任官ヲ分テ六等トシ其俸給ヲ定ム

○高等官官等俸給令 明治十九年三月 勅令第六號

朕茲ニ高等官官等俸給令ヲ裁可ス  
高等官官等俸給令

官等及叙任

- 第一條 高等官ヲ分テ勅任官奏任官トス
- 第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首坐ノ大臣之ニ副署ス
- 第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外勅任官ヲ分テ二等トス其辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス
- 第四條 奏任官ヲ分テ六等トス其任官ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス
- 第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス
- 第六條 各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル

第七條 勅任官又ハ奏任官ノ官等内ニ於テ特ニ官等ヲ限ルコトヲ要スルモ  
ノハ各別ニ之ヲ定ム

第八條 (二十三年勅令第三十  
六號ヲ以テ本條削除)

第九條 同一ノ官名ニシテ等差アルモノハ每等人員ヲ定メ内閣總理大臣ノ  
認可ヲ受クヘシ其每等ノ定員變更ヲ要スルトキモ亦同シ

俸給

第十條 勅任奏任文官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第十一條 陸海軍武官ノ年俸ハ從前定ムル所ニ依ル

第十二條 議官交際官領事貿易事務官判事檢事理事地方官教官技術官ノ類  
其特ニ定ムル俸給ハ前條ノ外トス

第十三條 奏任官ノ年俸ハ各廳俸給定額内及其官等年俸ノ等級ニ依リ事務  
ノ繁簡ニ從ヒ各大臣便宜之ヲ増減スルコトヲ得

陞叙及特例

第十四條 奏任官二等三等ハ每等在職五年以上奏任官四等五等六等ハ每等  
在職三年以上ニ至ラサレハ陞叙スルコトヲ得ス(二十三年勅令第三  
十六號ヲ以テ改正)

第十五條 每等人員ヲ定ムルノ官ハ前條ノ在職年數ヲ踰ユルモ缺員アルニ  
アラサレハ陞叙スルコトヲ得ス(二十三年勅令第三  
十六號ヲ以テ改正)

第十六條 (二十三年勅令第三十  
六號ヲ以テ本條削除)

第十七條 (二十三年勅令第三十  
六號ヲ以テ本條削除)

第十八條 勅任官ハ本令ノ外勅旨ヲ以テ特ニ其年俸ヲ増給スルコトアルヘ  
シ

第十九條 奏任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケタル者勞績拔群顯著ナルハ内閣  
ノ上奏ニ依リ特旨ヲ以テ勅任官二等ノ下級俸ヲ給スルコトアルヘシ

第二十條 奏任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼ヌル所ノ俸給三分ノ一以内ヲ  
増給スルコトヲ得

同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス



第二十一條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

附則(二十三年勅令第三十六號ヲ以テ第(二十二條ヲ廢シ更ニ本則ヲ追加ス)

第二十二條 高等文官ノ年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ之ヲ給ス

第二十三條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第二十四條 廢官退官及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシテ當月分ノ全額ヲ給ス

第二十五條 非職廢官退官者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ年俸ヲ給ス

第二十六條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹ルモノ及優恩ニ由リ賜暇休養スルモノハ此限ニアラス

第二十七條 前條ノ外私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス

第二十八條 各大臣ノ祕書官ニハ一箇月五拾圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十九條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム(別表)

勅任官		奏任官					
内閣總理大臣	一	一等	二等	三等	四等	五等	六等
	九千六百圓	五千圓	四千圓	三千圓	貳千圓	千八百圓	千貳百圓
各省大臣	上	中	下	上	中	下	
	五千圓	貳千八百圓	貳千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千貳百圓
六千圓	下	下	下	下	下	下	
	四千圓	貳千圓	千六百圓	千四百圓	千貳百圓	千圓	八百圓
							七百圓
							四百圓

○試補及見習ノ待遇並任用方明治二十年十一月勅令第五十七號

高等官官等俸給令

二十七年勅令第三十七號ハ本類ニ載スル者

二十三年勅令第三十七號ヲ以テ判任官等俸給令ヲ改訂スルハ本類ニ載スル者

二十年勅令第三十七號ハ本類ニ載スル者

二十一年勅令第二十八號ハ本類ニ載スル者

本年七月勅令第三十七號文官試験試補及見習規則ニ據リ試補及見習ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ試補ヲ奏任トシ見習ヲ判任トス  
同則ニ據リ試補及見習ヲ本官ニ任用スルニハ試補ハ奏任官四等以下トシ見習ハ判任官二五等以下トス

セラ○文官技術官等ノ試補及見習俸給支給方二十一年三月明治二十年七月勅令第三十七號文官試験試補及見習規則ニ據リ試補ヲ命レタル者ニハ年俸六百圓以下見習ヲ命シタル者ニハ月給貳拾五圓以下其官廳ノ定額内ニ於テ所屬長官便宜之ヲ給スルコトヲ得  
明治二十年十二月閣令第二十八號ニ揭クル試補ノ俸給ハ年俸九百圓以下判任官見習ノ俸給ハ月給四拾圓以下其官廳ノ定額内ニ於テ所屬長官便宜之ヲ給スルコトヲ得  
○文官俸給支給細則二十三年四月文官俸給支給細則左ノ通相定メ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス  
但明治十九年當省令第十二號第十五號及ヒ第二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

第一條 高等官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモノトス但

休日ヨ當ルトキハ順延トス

支給期月ノ五日	陸軍省	海軍省
支給期月ノ六日	農商務省	文部省
支給期月ノ四日	大藏省	逓信省
	貴族院	
	會計検査院	
	内閣總理府	樞密院
	外務省	内務省
	元老院	衆議院

第二條 判任官ノ俸給ハ毎月末日ヨ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰上ケトス  
第三條 廢官退官ノモノ高等官官等俸給令第二十五條ニ依殘務ヲ調理シ其月内ニ調理了リタルトキハ高等官官等俸給令第二十四條ニヨリ全額ヲ支給シ翌月以降ニ涉ルトキハ日割ヲ以テ調理了ノ日マテ從前ノ俸給ヲ支給スルモノトス  
第四條 兼任ノ増俸ハ其兼任廳ヨリ支給スルモノトス  
第五條 他廳へ轉任シタルモノハ第一條第二條ノ支給日ニ拘ラズ日割

高等官官等俸給令

計算ヲ以テ發令ノ當日マテニ係ル俸給ヲ支給ス  
 廢官退官ノモ、高等官官等俸給令第二十五條ニ依リ殘務ヲ調理シタ  
 ルトキハ調理結了ノ日ヲ待テ支給スルモノトス其調理結了迄ニ數箇  
 月ヲ要スルモノハ第一條第二條ノ支給定日ニヨル  
 第六條 高等官他應ニ轉任若シハ非職廢官退官ノトキ俸給ノ過渡アル  
 トキハ前任應ニ於テ其際之ヲ追徵スヘシ  
 俸給支給定日後他應ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任應ニ於テ其期內  
 殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス  
 第七條 高等官官等俸給令第二十六條ノ場合ト同第二十七條ノ場合ト  
 相續テ起ルトキハ其日數ハ總テ前後ヲ通算ス但第二十七條ノ期限ヲ  
 過キ已ニ減俸ノモノ第二十六條ニ移ルモ本俸ニ復セズ  
 第八條 賜暇忌引ノ場合ト高等官官等俸給令第二十六條若クハ第二十  
 七條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇忌引ノ日數ヲ扣除ス  
 高等官官等俸給令第二十六條若クハ同第二十七條ノ期限ヲ過キ已ニ  
 減俸ノモノ賜暇忌引ニ連續シ其賜暇忌引後直ニ上應スルモノハ該賜  
 暇忌引ノ日ヨリ本俸ヲ支給スルモノトス但賜暇忌引ヲ過キ尙上應セ  
 サルトキハ總テ減俸ノ額ヲ支給ス  
 第九條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル但年俸ハ之ヲ十二分ニ其  
 月額ヲ算出シテ計算ス

俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切  
 捨トス

○年額及月額ノ手當金支給方二十二年一月一號  
 年額又ハ月額ノ手當金ハ每月之ヲ十二分ノ末日休日ニ當ル之ヲ支給シ  
 任轉免等ノ場合ハ其月ノ現日數ニ由リ日割ヲ以テ計算ス  
 但明治十六年當省達第五十七號ハ廢止ス

○判任官官等俸給令明治十九年四月勅令第三十六號

朕茲ニ判任官官等俸給令ヲ裁可ス

判任官官等俸給令

- 第一條 判任官ヲ分テ六等トシ一等ヨリ六等ニ至ル(二十三年勅令第三十七號ヲ以テ改正)
- 第二條 判任文官ノ月俸ハ別表ニ依ル
- 第三條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ從前定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモ

判任官官等俸給令

ノハ前條ノ限ニアラス

第四條 判任官二等三等ハ每等在職四年以上判任官四等五等六等ハ每等在職二年以上ニ至ラサレハ陞叙スルコトヲ得ス(二十三年勅令第三十七號ヲ以テ改正)

第五條 每等ニ定員ヲ限リ缺員アルニアラサレハ前條ノ在職年數ヲ踰ユルモノト雖モ陞叙スルコトヲ得ス(二十三年勅令第三十七號ヲ以テ本項改正)

每等ノ定員ニ缺員アルモ之ヲ補フコトヲ得サルトキハ次等以下ニ其人員ヲ増置スルコトヲ得(二十三年勅令第三十七號ヲ以テ本項追加)

第六條 判任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘタル者勞績拔群顯著ナルモノハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ハラヌ漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第七條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第八條 前條ノ外俸給支給ニ關シテハ高等官官等俸給令第二十三條第二十

四條第二十六條第二十七條ノ例ニ依ル(二十三年勅令第三十七號ヲ以テ改正)

第九條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム(二十三年勅令第三十七號ヲ以テ本條追加)

(別表)(二十三年勅令第三十七號ヲ以テ本表改正)

判任官

一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等
上 七拾五圓	五拾圓	四拾五圓	三拾五圓	貳拾五圓	拾五圓
下 六拾圓	五拾圓	四拾圓	三拾圓	貳拾圓	拾貳圓

○特ニ官等俸給ノ規定アル判任官ハ仍舊ニ依ル明治二十三年三月勅令第三十八號

朕茲ニ判任官ニシテ特ニ官等俸給ノ規定アル者ニ關スルノ件ヲ裁可ス  
判任官ニシテ特ニ官等俸給ノ規定アルモノハ當分ノ内改正判任官官等

俸給令ニ依ラスシテ仍從前ノ規定ニ依ル

○判任官官等俸給令中改正ニ付其官等及進級年限規程二十三年三月判任官官等俸給令中改正ニ付テハ其官等及進級年限ハ左ノ規程ニ依ル

- 一 現在判任官ハ本令ノ改正ニ依リ其月俸ニ相當スル官等ニ被セラレ同額ノ月俸ヲ受クルモノトシ更ニ辭令ヲ用ヒス
- 二 本令第四條ノ年限ハ本令ノ改正ニ依リ官等ノ變更シタル者從來官等ノ下級俸ニ相當スル月俸ヲ受クルモノハ新官等被日ヨリ起算シ其上级俸ニ相當スル月俸ヲ受クルモノハ前官等被日ヨリ起算ス

○備員俸給定方十九年九月大藏省訓令第四十三號

備員俸給支給方ノ儀ハ判任官ト權衡ヲ失ハサル様適宜之ヲ定メ當省へ届出ヘシ

○司法省備員以下俸給支給規則十九年九月司法省訓令第二十二號

備員以下俸給支給規則左ノ通相定ム二十一年司法省訓令第七號ヲ以テ備員以下俸給支給規則二十一年司法省訓令第七號ヲ以テ

備員以下俸給支給規則二十一年司法省訓令第七號ヲ以テ

第一條 雇員以下俸給ハ毎月廿七日支給スルモノトス二十一年司法省

ノ二ノ字ヲ加フ

第二條 新任ノ時ハ職務ニ就キタル當日ヨリ支給スルモノトス

第三條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ増減支給スルモノトス

第四條 轉任ノ時ハ前廳ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ後廳ニ於テ支給スルモノトス

第五條 公務ニ因リ旅行スルモノハ第一條ノ定日旅行日積日數内ニ在ル時ハ該月分ノ俸給ヲ繰上ケ支給スルヲ得

第六條 日給ハ大祭日祝日日曜日ノ休暇ハ之レヲ支給シ病氣引忌引其他不參ノ日ハ總テ支給セサルモノトス

第七條 前各條ニ掲グルモノ、外月給ハ判任官俸給支給細則ニ準據ス二十年司法省訓令第七號ヲ以テ追加

第八條 官吏ノ事務ニ從事セス雇人料ヨリ其俸給ヲ支給スルモノ、月給ハ不參ノ日ハ日割減給スルモノトス二十一年司法省訓令第七號ヲ以テ追加

○賞勳局職員官等年俸 明治十九年三月 勅令第十號

沿革略記 明治九年十月第九十六號達ヲ以テ正院中賞勳事務局ヲ置キ 正副長主事一等二等秘書官一級二級三級秘書ノ官等ヲ定ム

○同年十二月第九十九號達ヲ以テ賞勳事務局ヲ改稱ス○ 同年一月第十號達ヲ以テ一級秘書以下ヲ廢ス○ 十一年三月第八號 達ヲ以テ正副長ヲ廢シ正副總裁ヲ置ク○ 十八年十二月内閣第八十 二號達ヲ以テ主事及一二等秘書記ヲ廢シ秘書官並屬ヲ置ク○ 十九 年三月勅令第十號ヲ以テ内閣賞勳局職員及官等年俸ヲ定ム

朕内閣賞勳局職員及官等年俸ヲ裁可ス

内閣賞勳局職員及官等年俸

第一條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人  
勅任 一等

副總裁 一人  
勅任 二等  
書記官 二人  
奏任自一等至四等

屬

判任

第二條 總裁副總裁及書記官ノ年俸ハ左ノ如ク定ム

總裁 四千圓

副總裁 三千圓

書記官

奏任一等 上貳千四百圓  
下貳千貳百圓  
奏任二等 上貳千八百圓  
下千八百圓  
奏任三等 上千六百圓  
下千四百圓

賞勳局職員官等年俸

奏任四等

上千貳百圓  
下千圓

四百九十六

○樞密院議長及顧問官年俸明治二十一年四月勅令第二十三號

朕茲ニ樞密院議長及顧問官ノ年俸ヲ裁可ス

樞密院議長及顧問官年俸

樞密院議長 六千圓

樞密院副議長 五千圓

樞密顧問官 四千五百圓

○交際官並領事費用條例明治十九年七月勅令第四十九號

沿革略記

明治三年閏十月二日大中小事務使大少書記ヲ置キ官位ヲ定ム○四年十月廿日特命全權大使へ達シ以テ書記官一等ヨリ

五等迄ヲ置キ官等ヲ定メ理事官及隨行官ハ本官ノ等級タラシム○同年十一月五日總理事正副理事代理理事ヲ置キ官等ヲ定ム○五年十月第三百八號ヲ以テ大中小事務使大少書記以下ヲ廢シ特命全權公使以下并一二三等書記官ヲ置キ官等ヲ定ム○同年同月第三百二十六號ヲ以テ一等書記生以下八等ヲ置キ官等ヲ定ム○六年二月第十六號ヲ以テ代領事ヲ廢ス○同年五月第五百八十五號ヲ以テ公使領事以下給料等洋銀ヲ以テ支給ノ處本年六月一日ヨリ新貨ヲ以テ支給ス○九年八月外務省へ達シ以テ公使領事費用條例ヲ設ケ公使以下ノ月俸及三等書記官三等書記以下ヲ廢シ更ニ公使領事書記官以下年俸ヲ定ム○十年九月第六十六號達ヲ以テ領事官官等ヲ改定ス○十二年十二月第四十六號達ヲ以テ三等書記官三等書記生ヲ置キ官等ヲ定メ書記一二等見習ヲ廢ス○十四年八月第七十三號達ヲ以テ一二三等書記官書記生ヲ廢シ更ニ書記官書記生ヲ置ク○同年十一月第九十七號達ヲ以テ領事ノ官等ヲ改正ス○十五年三月第十五號達ヲ以テ特命全權公使ノ官等ヲ改正シテ一二等官ト爲ス○十九年七月勅令第十九號ヲ以テ交際官並領事費用條例ヲ改正ス

交際官並領事費用條例

四百九十七

朕交際官並領事費用條例ノ改正ヲ裁可ス

交際官並領事費用條例

第一條 海外在勤ノ公使領事以下官員ノ年俸ハ第一號表ニ照シテ之ヲ支給ス但任所着翌日ヨリ起算シ任所出發ノ前日マテ日割ヲ以テ支給ス

第二條 公使領事參事官書記官赴任前許可ヲ得テ妻ヲ携帶スル者及赴任後許可ヲ得テ任所へ妻ヲ呼寄スル者ハ總テ其妻任所着翌日ヨリ起算シ任所出發歸朝ノ前日マテ日割ヲ以テ妻携帶ノ俸給ヲ支給ス

第三條 出發前ノ俸給ハ新拜命ノ官員出發前滯京ノ日數ヲ六十日ト定メ第一號表ニ照シ通貨ヲ以テ支給ス妻携帶ノ許可ヲ得タル公使領事參事官書記官ニハ其給額ノ二割増ヲ支給ス

第四條 前條ノ期限内ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ出發前ノ俸給ヲ六十日ニ分割シ前任所後任所ニ從ヒ支給ス又出發ノ延期ヲ命セラレタル者

ハ六十日以後ハ第四號表公用滯京ノ項ニ照シテ支給シ病氣ニテ出發ノ延期ヲ願出タル者ハ同表養病歸朝ノ項ニ照シテ支給ス

第五條 出發前三十日以内ニ於テ免官セラレタル者及赴任ヲ免セラレタル者ハ出發前俸給ノ半額ヲ返納セシムヘシ又免官免任ノ期三十日以後ニ方レハ其給額ヲ六十日ニ割リ之ヲ返納セシムヘシ

其願ニ依リ赴任ヲ免セラレタル者ハ悉皆返納セシムヘシ

第六條 往返旅中俸給ハ本邦任所往返旅中上陸賄料馬車代公用郵便稅電信料接待費等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第七條 往返旅中俸給ハ現日數ニ拘ハラヌ又赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景况視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ地方へ巡回スルニ拘ハラヌ第三號表本任所ノ項ニ就テ支給ス

第八條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者ニモ亦前條ノ俸給ヲ支給スト雖モ任所ニ於テ免官ノ者ニハ之ヲ支給セス



第九條 任所往返ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡回シ或ハ航行中非常ノ事故アリテ郵船ヲ待合セ又ハ某港ニ滞留スル者之カ爲メ第三號表中限日數ヨリ延着スルトキハ外務大臣定ムル所ノ費額ヲ支給ス

第十條 甲地在勤ノ者乙地へ任所替ヲ命セラレタルトキハ旅中俸給トシテ甲地出發ノ日ヨリ乙地着任ノ日マテヲ算シ本邦任所往返旅中俸給ノ額ヲ日割トシ現日數ニ乗シテ支給ス

第十一條 公使領事交代スルトキ公使ハ解任狀捧呈謁見濟ノ日ヲ以テ事務ヲ引繼キ領事ハ新任領事到着ノ日ヨリ一週間内ニ之ヲ引繼キ共ニ其當日ヨリ三週間内ニ其任所ヲ發程スヘシ

第十二條 公使領事歸朝ヲ命セラレ又ハ歸朝ノ許可ヲ得或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ其命令到達ノ日ヨリ三週間内ニ事務ヲ其代理者ニ引繼キ任所ヲ發程ス

第十三條 參事官書記官交際官試補書記生ノ交代并歸朝任所替發程期日ハ

第十一條第十二條ノ例ニ同シ

第十四條 發程ノ延期ヲ命セラレタル者ノ外公館ノ公務ニ依リ發程ノ延期ヲ要スル者ハ外務大臣ノ許可ヲ得テ仍ホ一週間延期スルトコトヲ得ヘシト雖モ此延期中ハ公使領事ハ年俸二分ノ一參事官以下ハ年俸三分ノ二日割ヲ以テ支給ス

病氣其他事故ニ依リ出發ヲ延期セシ公使領事ニハ年俸三分ノ一參事官以下ニハ年俸二分ノ一日割ヲ以テ支給ス

第十五條 任所ヲ轉スル者ニハ事務引繼濟ニ拘ハラズ新任ノ年俸ヲ支給ス

第十六條 公使領事公用ニテ在留國內外ニ旅行スルトキ其代理ヲ任スルコトアルモ事務ノ引繼ヲ爲スニ及ハス故ニ代理者ニ代理年俸ヲ支給セスシテ公館費用ハ公使領事ノ擔任トス

第十七條 公使領事任所不在中其代理者ニハ本任官出發ノ日ヨリ起算シ本官ノ年俸ヲ支給セス代理年俸ヲ支給ス本任官歸任スルカ或ハ新任公使領

事到着スルトキハ事務引繼ノ日割ニ拘ハラヌ者翌日ヨリ代理者ニ代理年俸ヲ支給セス

第十八條 交代濟歸朝ノ後無任所外交官ヲ命セラレサル者ニハ着京翌日ヨリ百八十日ヲ限リ第四號表交代濟歸朝日當ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス此期滿レハ官吏非職條例ニ依リ非職ヲ命ス但非職俸ハ交代濟歸朝日當ノ三分ノ二ヲ以テ算出スヘシ

第十九條 在勤滿三箇年以上ニ彌リ外務大臣ノ許可ヲ得往復順路ノ日數ヲ除キ六箇月間賜暇歸朝ノ者ニハ着京翌日ヨリ第四號表賜暇歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

休假期日ヲ過キ病氣其他ノ事故ニ依リ歸任ヲ延期スル者ニハ同表養病滯京ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十條 公用ニテ歸朝ヲ命セラレタル者及航海不便ノ港ニシテ毎歲冬季例ニ從ヒ閉館シ隨テ歸朝スル者ノ日給支給法亦前條ニ同シ

官吏非職條例  
ハ第二十二條  
ニ載ス

第二十一條 歸省養病等ノ許可ヲ得テ歸朝スル者ニハ着京翌日ヨリ第四號表養病歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十二條 臨時代理公使ニハ代理公使ノ年俸ヲ支給ス

第二十三條 貿易事務官其他特設ノ官名ヲ以テ領事ノ職務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ其官等ニ應シ領事ノ例ニ照シテ年俸其他ノ支給ヲ爲スヘシ

第二十四條 公使領事以下死亡シタルトキハ第四號表一時賜金年俸三分ノ一ヲ給與ス海外ニ於テ死亡シタル者ニハ別ニ在勤年俸一箇月分ヲ支給ス

赴任前死亡シタルトキハ出發前ノ俸給ヲ返納セシムルニ及ハス

第二十五條 移轉費、交際費、事務所費、公館雇員費、妻并從者旅費、航行費、陸路費、在留國內外公用旅行雜費、公館借入、公館備付品科目買上代價并修理費、事務引繼前後經費負擔ノ區分、公館經費、公館非常準備金其他計算等ニ關スル細則ハ外務大藏兩大臣ノ定ムル所ニ依ル

交際官並領事費用條例











官職	月給	年給	備考
副領事	四百五十	五千四百	...
書記生	四百	四千八百	...
書記生	三百八十	四千六百	...
書記生	三百六十	四千四百	...
書記生	三百四十	四千二百	...
書記生	三百二十	四千	...
書記生	三百	三千八百	...
書記生	二百八十	三千六百	...
書記生	二百六十	三千四百	...
書記生	二百四十	三千二百	...
書記生	二百二十	三千	...
書記生	二百	二千八百	...
書記生	一百八十	二千六百	...
書記生	一百六十	二千四百	...
書記生	一百四十	二千二百	...
書記生	一百二十	二千	...
書記生	一百	一千八百	...
書記生	八十	一千六百	...
書記生	六十	一千四百	...
書記生	四十	一千二百	...
書記生	三十	一千	...
書記生	二十	八百	...
書記生	十	六百	...
書記生	...	...	...

赴任ノ節ハ銀貨歸朝ノ節ハ英貨ヲ以テ支給シ亞細亞ハ往返共銀貨朝鮮國ハ紙幣ヲ以テ支給ス可シ

第四號

本邦滞在中日給并賜金表

官職	月給	年給	備考
公用滯京	...	...	...
賜暇歸朝	...	...	...
發病滯京百日後	...	...	...
歸鄉交代	...	...	...
濟歸	...	...	...
恩給并一時賜金	...	...	...
算出ノキ年俸額	...	...	...
勳任一等	...	...	...
勳任二等	...	...	...
勳任三等	...	...	...
勳任四等	...	...	...
勳任五等	...	...	...
勳任六等	...	...	...
勳任七等	...	...	...
勳任八等	...	...	...
勳任九等	...	...	...
勳任十等	...	...	...
勳任十一等	...	...	...
勳任十二等	...	...	...
勳任十三等	...	...	...
勳任十四等	...	...	...
勳任十五等	...	...	...
勳任十六等	...	...	...
勳任十七等	...	...	...
勳任十八等	...	...	...
勳任十九等	...	...	...
勳任二十等	...	...	...

交際官並領事費用條例



二十一年  
十一月  
令第五  
號  
官制  
令  
第二十  
一年  
十一月  
令  
第五  
號  
官制

同 書記生 年六級	同 書記生 年五級	同 書記生 年四級	同 書記生 年三級	同 書記生 年二級	判 書記生 年一級	同 副 領事 年一級	同 副 領事 年二級	同 副 領事 年三級	同 副 領事 年四級	同 副 領事 年五級	同 副 領事 年六級	同 副 領事 年七級	同 副 領事 年八級	同 副 領事 年九級	同 副 領事 年十級
九拾九錢	壹圓拾五錢	壹圓三拾貳錢	壹圓四拾八錢	壹圓六拾四錢	貳圓四拾七錢	九拾九錢	壹圓拾五錢	壹圓三拾貳錢	壹圓四拾八錢	壹圓六拾四錢	貳圓四拾七錢	三圓四拾八錢	四圓三拾九錢	三圓四拾八錢	三圓四拾八錢
七拾四錢	八拾六錢	九拾九錢	壹圓拾壹錢	壹圓貳拾三錢	壹圓八拾五錢	七拾四錢	八拾六錢	九拾九錢	壹圓拾壹錢	壹圓貳拾三錢	壹圓八拾五錢	貳圓四拾七錢	三圓四拾八錢	四圓三拾九錢	三圓四拾八錢
五拾錢	五拾八錢	六拾六錢	七拾四錢	八拾貳錢	壹圓貳拾四錢	五拾錢	五拾八錢	六拾六錢	七拾四錢	八拾貳錢	壹圓貳拾四錢	貳圓四拾七錢	三圓四拾八錢	四圓三拾九錢	三圓四拾八錢
三拾五錢	四拾錢	四拾五錢	五拾錢	六拾錢	八拾錢	三拾五錢	四拾錢	四拾五錢	五拾錢	六拾錢	八拾錢	壹圓貳拾四錢	貳圓四拾七錢	三圓四拾八錢	四圓三拾九錢
三百六拾圓	四百貳拾圓	四百八拾圓	五百四拾圓	六百圓	九百圓	三百六拾圓	四百貳拾圓	四百八拾圓	五百四拾圓	六百圓	九百圓	壹千貳百圓	壹千貳百圓	壹千貳百圓	壹千貳百圓

五百十六

同 書記生 年七級	同 書記生 年八級	同 書記生 年九級	同 書記生 年十級
八拾貳錢	六拾六錢	四拾九錢	三拾九錢
六拾貳錢	五拾錢	三拾七錢	貳拾九錢
四拾壹錢	三拾三錢	貳拾五錢	貳拾錢
三拾錢	貳拾五錢	貳拾錢	拾八錢
三百圓	貳百四拾圓	百八拾圓	百四拾四圓

○交際官并領事費用條例細則  
 交際官并領事費用條例細則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 第一章 在勤年俸

第一條 條例第一條ニ載スル在勤年俸日割支給ノ計算ハ其年ノ現日數ヲ以テ除シ割リ得タル額ヲ日數ニ乘シ支給スヘシ  
 公使領事以下官員海外ニ於テ新任轉任増俸減俸ノ節其俸給ハ現ニ本人其辭令ヲ受ケン翌日ヨリ起算支給スヘシ  
 公使領事以下官員赴任ノ際在勤年俸ノ内其幾分ヲ本邦ニテ請取ラン

交際官並領事費用條例

五百十七

コトヲ出願スルトキハ外務大臣ニ於テ其事情不得止モノト認定スル  
場合ニ限リ在勤年俸三ヶ月以内ヲ前渡スルコトアルヘシ(二十年外務令第一號ヲ以テ)  
本項追加

第二條 妻携帶ノ公使領事參事官書記官等御用有之歸朝被命任地出發  
ノ際其妻病氣其他不得已事故有之同伴シ難キトキハ其事情ヲ具シ其  
妻ノ出發延期ヲ外務省ニ申請スヘシ外務省ニ於テ右ノ申請ヲ至當ト  
認ルトキハ其夫任地出發スルモ妻尙滞在スルトキハ妻携帶費ヲ支給  
スルコトアルヘシ

第二章 出發前俸給

第三條 條例第三條出發前俸給ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限リ支  
給シ歸朝中他所ニ在勤替ヲ命セラル、モノハ滯京日給ノ外ニ海外移  
轉費ヲ給シ出發前俸給ヲ給セス尤歸朝滯京中奏任ヨリ勅任ニ轉シ再  
ヒ赴任スル者ハ始メテ在勤ヲ命セラレタルモノ、例ニ依リ出發前ノ  
俸給ヲ支給スヘシ

第四條 公使領事參事官書記官在勤中許可ヲ得テ妻ヲ呼寄スル者ハ官  
等相當ノ出發前俸給ノ二割増ヲ支給ス可シ

第三章 旅中俸給

第五條 條例第九條ノ場合ニ於テ旅中ノ日數定期ヲ超ユルトキハ外國  
ニ在テハ乙號表旅行雜費内國ニ在テハ本例第四號表御用滯京ノ日給

ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第四章 任所替移轉諸費

第六條 在勤先ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ條例第十條俸給ノ外  
移轉諸費トシテ丙號表ノ金額ヲ支給スヘシ

第五章 交際費及事務所費渡切

第七條 參事官書記官等ニテ公館事務ヲ擔任スルモ臨時代理公使ノ名  
義ナキ者ハ代理年俸ヲ賜ハラス交際費トシテ公使館ハ一箇年六百圓  
又副領事書記生等ニテ領事館ノ事務ヲ擔任スルモ領事代理ノ名義ナ  
キ者ハ手當トシテ同三百圓月割(十五日前後)ヲ以テ支給ス其他公館ノ  
費用ハ總テ官金ヲ以テ現費仕拂フヘシ尤モ公使領事不在中ト雖モ公  
館ノ費用ヲ公使領事ニテ擔任スルトキハ此限ニアラス(二十年外務令第一號ヲ以テ又下ノ六字ヲ削リ副領事以下ノ七字ヲ挿入ス)

第八條 副領事書記生等ニテ總領事又ハ領事管轄内ノ一地ニ常住シテ  
事務ヲ擔任スルトキハ事務取扱所借料其他一切ノ公費トシテ一箇年五  
百圓以上貳千五百圓以内ノ金額月割ヲ以テ(十五日前後)支給シ精算ニ  
及ハス(二十年外務令第一號ヲ以テ副領事以下ノ七字ヲ挿入ス)

第九條 各領事館ニ於テ其事務多端或ハ事故アリテ特ニ臨時交際費用  
ヲ要スルトキハ五百圓以上千圓以内ノ金額ヲ臨時給與スルコトアル  
ヘシ

第十條 歐洲在勤ノ公使兼任國へ滯留スルトキハ旅行雜費ノ外臨時交際費トシテ兼任地著翌日ヨリ同地出發前日迄ヲ限リ一日英貨壹磅ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第六章 公館雇人

第十一條 公館ニ於テ事務ノ都合ニヨリ書記通譯等ノ爲メ外國人ノ雇入ヲ必要トナストキハ一館ニ一人ヲ限リ許可シ其給料ハ外務省ニ於テ之レヲ定ム依テ雇入ノ節ハ其事情及給額ヲ定メ前以テ外務省へ申請スヘシ但雇入ノ事情ニヨリ申請ノ暇ナキトキハ一時月期ヲ以テ雇入其情狀具ニ外務省へ申出ヘシ勿論假雇間ノ給料公使館ハ一箇月四百圓以内領事館ハ同貳百圓以内タルヘシ

第十二條 公館雇員ノ内不時缺員アルトキノ外公館使用ノ爲メ我國人ヲ雇入ル、コトヲ許サス但雇間ノ給料ハ歐米各國ニ在テハ一箇月英貨貳拾磅以内亞細亞地方ハ銀貨五拾圓以内タルヘシ

第七章 妻并從者旅費

第十三條 許可ヲ得テ妻ヲ携帶スル者ニハ任所往復及ヒ在勤中兼任國往復并任所替ノトキニ限リ妻ノ旅費トシテ甲號表ニ照シ航行費ノ一等陸路費ノ上等ヲ支給スヘシ

第十四條 許可ヲ得テ從者一人ヲ携フル者公使ニハ任所往復及在勤中兼任國往復並任所替ノトキ領事參事官書記官ニハ任所往復並任所替

ノトキニ限リ其從者ノ旅費トシテ甲號表ニ照シ航行費ノ二等陸路費ノ中等ヲ支給スヘシ

第十五條 妻並從者ニシテ其夫又ハ其主ト同行シ難キ事故アリテ單行スルトキハ任所往復一次ニ限リ航行費及陸路費ヲ支給ヘシ

但御用歸朝及賜暇歸朝ノ節ハ其都度之レヲ支給スヘシ  
第十六條 公館附雇書記外國人公用ニテ在留國內外及公使兼任國ニ旅行スルモ妻並從者ノ旅費ハ支給セサルヘシ

第八章 航行費並陸路費

第十七條 航行費並陸路費ハ船車賃旅具運搬費解人足賃等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第十八條 航行費並陸路費ハ赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景况視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ公館等ニ巡廻スル者ニモ甲號表定所ノ外支給セス  
第十九條 任所往復ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡廻スル者ニハ迂廻ノ距離ニ準シ航行費並陸路費ヲ支給スヘシ

第二十條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者又ハ任所ニ於テ願ニ依リ免官スル者ニハ航行費並陸路費ヲ給セス

第二十一條 歸省願濟日數滿テ或ハ病氣全快歸任ノ際公用ニテ滯在ヲ命セラレ出發ヲ延期セシムル者ハ歸任一次ノ旅費ヲ支給ス  
第二十二條 東京外ニ於テ拜命直ニ赴任スル者ノ旅費ハ現費支拂ノ精

算ニ依テ支給スヘシ但私屬荷物運賃勅任ハ七十貫目奏任ハ五十貫目判任ハ三十五貫目迄官費ヲ以テ支給ス

第二十三條 官船或ハ官ノ備船ニテ任所へ往復スル者ハ航行費ヲ給セヌ官船乗組附料トシテ勅任ハ一日壹圓五拾錢奏任ハ同壹圓貳拾錢判任ハ同九拾錢ヲ支給ス但官仕賄ノ節ハ之レヲ給セヌ

第九章 在留國內外公用旅行雜費

第二十四條 旅行雜費ハ旅中賄料接待費馬車解人足賃公用郵便稅等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第二十五條 旅行雜費ハ公使領事以下命ニ依リ其在留國內外ヲ旅行スルトキ任所出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄航行費ヲ要スヲ算シ年俸ノ外乙號表ニ照ラシ臨時代理公使ハ代理其日數ニ應シテ之レヲ支給スヘシ但往復一日ノ者ニハ之レヲ給セヌ（二十二年外務省令第一號ヲ以テ）

第二十六條 順路ノ船車賃ニシテ甲號表ニ定額ナキモノハ實費ヲ支給ス但實費支給ノ精算帳ニハ其金額及旅次ノ順路及發着日限ヲ記載シ其館ノ長官捺印シタル證明書ヲ添フヘシ

第二十七條 旅行雜費ハ出張先二週間（若シ日ヨリ限リ全額ヲ支給シ二週間後ハ半額ヲ支給ス兼任國滞在ハ五週間上同）ヲ限リ全額ヲ支給シ其後ハ半額ヲ支給ス但國書捧呈等ノ爲メ兼任國政府ノ都合ニ依リ此期ヲ經過スルトキハ其事情已ムヲ得スト認定スルトキニ限リ期日後

ト雖モ仍ホ全額ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十八條 前條旅費等請求ノ節ハ任地出發ヨリ各地着發及滞在ノ日時等明記シタル旅中經歷書ヲ勘定書ニ添ヘ差出スヘシ

第二十九條 在勤者ノ内事務ノ都合ヨリ外務省ノ許可ヲ得テ甲應ノ官員ヲシテ乙應ニ至リ其事務ヲ執ラシムルトキハ其俸給ハ甲應ヨリ旅費並旅行雜費ハ乙應ヨリ支給シ留勤中ハ旅行雜費ヲ給セヌ但乙應留勤中其應ノ公用ニテ旅行スルトキハ其應ヨリ旅費並旅行雜費ヲ支給スヘシ

第三十條 在哥爾薩港領事館管內漁場巡廻中日數ニ應シ旅行雜費ヲ支給シ且賄道具及運輸人馬賃等現場仕拂官費ナルヘシ

第十章 公使領事以下恩給並一時賜金

第三十一條 公使領事以下ノ恩給並一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ハ本例第四號表恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ニ依ル

第三十二條 公使領事以下海外ニ於テ死亡セシトキハ埋葬墓碑ノ費用ハ官ヨリ之レヲ支給ス

但其遺骸本邦へ回送スルトキハ埋葬料ヲ給セス其地ヨリ本邦マテノ旅費ノ金額ヲ手當トシテ支給スヘシ（二十二年外務省令第一號ヲ以テ但舊追加） 公使領事以下官員許可ヲ得テ携行ノ妻海外ニ於テ死亡シ遺骸本邦へ回送スルトキハ甲號表ニ照シ其地ヨリ本邦マテノ旅費ノ金額ヲ手當

トシテ支給スヘシ(二十二年外務省令第  
一號ヲ以テ本項追加)

第十一章 公館借入及移轉

第三十三條 公館ニ充ツル爲メ借入ル、家屋ノ借料ハ年々定ムル所ノ豫算額ヲ超ユヘカラス若シ此定額ヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス但此條例發行前既ニ借入レ約定ヲ結ヒタル家屋ニシテ借料定額ヲ超エタルモノハ其期限迄ハ條約ニ隨ヒ支辨スヘシ

第三十四條 公館借入條約ハ正副二通トナシ其副書ヲ外務省ヘ差出スヘシ

第三十五條 公館ノ爲メ借入ル、家屋ハ備付什器ナキ家屋トス若シ什器アル家屋ヲ借受ケ夫レカ爲メ定額ヲ超過スルトキハ公使領事ノ自辨トス

第三十六條 公館移轉ノ際新舊兩館ノ借料重複スルトキハ一箇月ニ限リ官費ヲ以テ之レヲ仕拂ヒ其餘ハ公使領事ノ自費トス

第三十七條 公館ノ移轉ニ依リ手数料謝金其他新館ノ窓掛ク敷物等總テ移轉ヨリ生スル費用ハ公館經費ヲ以テ支辨スヘシ若シ移轉ノ爲メ定額外ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ヘ具狀シ費用支出ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ移轉スヘカラス此許可ヲ得スシテ定額ヲ超過スルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス

第三十八條 公館移轉ノ際荷物運搬ノ費用ハ總テ官費ヲ以テ支辨スヘシ

第十二章 公館備付品科目買上代價額並修理

第三十九條 公館備付品科目ハ丁號表ニ依ル

第四十條 公館諸什器買上代價額ハ歐米公使館ハ銀貨壹萬五千六百圓 清國公使館ハ同壹萬三千七百圓 朝鮮國公使館ハ通貨壹萬貳千圓 領事館ハ總テ銀貨四千圓(朝鮮國領事館ハ通貨) 公館創立ノ際一度限り之レヲ支給スヘシ

第四十一條 公館備付ノ諸什器ハ官費ヲ以テ修理若クハ買足ヲ爲シタルモノト公使領事ノ自費ヲ以テ修理スヘキモノトヲ分チ什器目錄ヲ製シ其一冊ハ外務省ニ差出シ一冊ハ公館ニ備置キ物品検査ノ用ニ供スヘシ故ニ物品缺損アルカ又ハ買足等ノ爲メ員數ニ増減ヲ生スルトキハ其時々外務省ヘ報告ノ上目錄帳ヲ加除スヘシ

第四十二條 公館備付什器ノ官費修理ハ其定額ヲ超ユヘカラス若シ之レヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自費トス但年曆ヲ經タル等ニテ修理費定額ニ超過スヘキトキ及公使領事自費ヲ以テ修理スヘキ什器ニテモ年曆ヲ經タル爲メ其自力ニ及ヒ難キ巨多ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ニ具申スヘシ外務省於テハ其申請ヲ至當ト認ムルトキハ公使館ハ銀貨貳千圓(朝鮮國以下領事館ハ同八百圓) 朝鮮國以下ノ修理費若クハ買足料ヲ支給スルコトアルヘシ

第四十三條 公使館庖厨具及厠諸雜具ノ費用トシテ銀貨五百圓ハ朝鮮國  
百公使初赴任ノ節一度限リ支給シ精算ニ及ハス

第十三章 公館經費

第四十四條 公使領事館ノ經費ニ立ツヘキ各件左ノ如シ

一 雇人料ノ内

公使領事館雇人料 裁判所及醫務並警察所ニ使役  
スル押丁並小使雇料ニ限ル

一 器具及圖書費ノ内

器具 丁或表一類備付ノ内公務所  
書房具ヲ除キ其他ノ附器具

戒具 朝鮮國領事館ニ限ル

書籍地圖

製本費

一 被服費ノ内

巡查徽章帶具費 警察、帶、鈕、捕、繩、  
手帖、呼、小、符、等

(清國並朝鮮國ニ限ル)

一 通信運搬費ノ内

電信料

運搬費

保險料

一 地所家屋借料

公館借料

公館用地借料

一 雜費ノ内

諸謝金

公館借入或ハ購買等ノ其約定書ニ付其地法律家ノ檢  
閱サテ依ルハ購取等ノ其地法律家ノ檢  
代官人ニ依頼スルキ場ニ合ニ於テ其地ノ法律ニ關シテ檢

廣告料

諸手數料

道路疏水手當及家屋地稅等

火災保險料 公館、公館備付器具

為換料

印紙料

一 修繕費

家屋修繕費

帝國政府ニ屬スル家屋ノ修繕又ハ借家ナレハ契  
約書ニ依リ家主ニ於テ負擔セサル修繕ニ限ル

一 裁判及囚徒費

一 警察及護衛費 但巡查死傷手當并助料ニ限ル

右實費精算スヘキモノニ付證書ヲ添ヘテ之レヲ證明スヘシ

一 雇人料ノ内

公使館雇人料 僕長、奴者、馬車、附、添、門、等、公  
務所、小使、主、關、番、婦、夫、等

一 器具及圖書費ノ内

交際官並領事費用條例

新聞雜誌類 内外各種ノ新聞、雜誌、アルマナック、アイレック  
一筆紙墨文具 各種ノ日本紙、西洋紙、計算表用紙、諸封袋等一切ノ紙類  
用紙 但郵引公館記名印刷費等

筆墨印肉類 各種ノ筆、墨、印、肉、類、常用、朱、墨、墨、汁、給、ノ、具、  
硯小道具類 硯、石、硯、箱、墨、盤、墨、汁、入、同、磁、器、引、道、具、石、盤、算、盤、水、入、糊、  
諸帳簿 新規修補共

一消耗品

薪炭油茶類 朝鮮國隨宿所及醫務所ニ限ル

雜品 糊、封、蠟、付、木、除、蟲、藥、品、書、類、綴、絲、綿、紐、  
一被服費ノ内 冠、前、項、手、袋、雨、具、靴、ノ、類、人、ノ、仕、被、衣、服、

一被服費ノ内

冠前項手袋雨具靴ノ類 人ノ仕被衣服、

一通信運搬費ノ内

公用郵便稅 一切ノ郵便費、不足稅及郵便發送ノ爲

一雜費ノ内

舟車馬類雇賃 舟、馬、車、借、賃、馬、糞、糶、物、等、ノ、類、  
馬飼料 飼食費、馬、糞、糶、料、等、ノ、類、  
馬厰料 厰、料、等、ノ、類、  
馬使館料 馬、使、館、料、等、ノ、類、  
馬打替 馬、打、替、料、等、ノ、類、  
馬西治療 馬、西、治、療、料、等、ノ、類、

一宴會費

天長節其他交際ニ係ル宴會諸費 但領事館ハ天

右費用ハ一箇年定額ヲ十二分シ一箇月毎ニ各科目定額ノ高ヲ拂ニ  
立テ過不足ヲ問ハス渡切ノ分ニ付證書ヲ添ニルニ不及又明細品名  
ヲ掲クルニ不及  
右月費精算ノ事

但此箇條ニ明文ナキ費用ハ公使領事ノ自辨タルヘシ

第四十五條 經費金ノ内定額ヲ以テ渡切ノ費用ハ不足アルモ追給セス  
又餘リアルモ返納ニ及ハス其定額金ヲ以テ彼此流用支辨スヘシ

第四十六條 經費金ノ内實費精算ノ分ハ年々外務省ヨリ通知スル處ノ  
豫算ニ基キ支出シ各科目ニ就テ超過セサランコトヲ豫計スヘシ

第四十七條 公館經費ノ内定額ヲ以テ渡切ノ分ハ公使領事交代ノ節事  
務引繼濟ノ當日ヲ以テ區分シ日割計算スヘシ

第十四章 公館非常準備金

第四十八條 公使館ハ銀貨五千圓 朝鮮國ハ通 領事館ハ總テ同三千圓 朝鮮國  
通貨ハ迄ハ非常已ムヲ得サルトキニ限リ公使領事ニ於テ大藏省預ケ金

ノ内或ハ預ケ金無之場所ハ其他ノ銀行ヨリ借入ル、コトヲ得ヘシ右  
ハ公館屬員等ノ定員ニ缺員アルトキ一時雇員費及漂民窮民貸與費患  
者費埋葬費等ノ如キ定額外臨時ノ仕拂ニ充テ至急外務省ニ報告シ銷  
還ノ手續ヲ爲スヘシ但公館所在地ニ於テ借金スヘキ銀行ナキトキハ

交際官並領事費用條例

本文ノ金額ヲ豫メ送致シ置ヘシ  
第四十九條 右準備金ハ大藏省ノ主管ナルヲ以テ借入等ノ手續ハ同省ノ通知ニ據リ取扱フヘシ

第十五章 回送金

第五十條 各公館經費金ハ其年額ヲ四季ニ割毎季節前大藏省ヨリ各公館ニ送達シ右送金ニ對スル明細ノ仕譯書ハ外務省ヨリ之レヲ送付スヘシ

第五十一條 前條ノ送金ヲ受取タルトキハ直ニ大藏省金庫局長宛領取證書ヲ發シ其旨外務省ヘ報告スヘシ

第十六章 經費金出納

第五十二條 在勤員年俸ハ三箇月分ヲ其中間ノ月ノ初日(假令ハ一月分ニ於ケル如シ)ニ渡方取計ヒ經費金ハ第十三章ノ科目ニ照ラシ支出シ現金受拂簿等ヲ設ケテ之レカ出納ヲ明瞭ニスヘシ

第五十三條 常費外臨時費用ヲ要スルトキハ事ノ大小ヲ不論總テ外務省ヘ申請シ許可ヲ受クヘシ但非常急場ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第五十四條 公館經費金ハ他費ヘ繰替支出スルコトヲ許サス萬一非常ノ場合ニ際シ一時繰替ヲ爲サ、ルヲ得サルトキハ直ニ繰替勘定帳ヲ以テ外務省ヘ報告シ償還ノ手續ヲナシ本拂ノ分ト混用スヘカラス

第十七章 經費金勘定

第五十五條 每一箇月其出納スル處ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘記シタル精算書ヲ雛形ニ倣ヒ調製シ翌月十五日迄ニ其地ヲ發シ外務省ニ送付スヘシ但實費精算ノ分ニ對シテハ正當請取證書寫或ハ事故アリテ請受證書ナキ分ハ其事故ヲ記シタル其館長官ノ證明書ヲ添ヘ又渡切ノ費用ハ其館長官ノ領取證書ヲ添付スヘシ

第五十六條 甲月ニ買入レタルモノ或ハ甲月ニ屬スヘキ費用ヲ乙月ニ於テ仕拂フコトヲ得ルト雖モ其勘定帳ヲ製スルニハ乙月ニ於テ現實仕拂タルニ拘ハラヌ甲月分ノ勘定帳ニ記載スヘシ但借家料及保險料ノ類前拂後拂等ノ約定アルモノハ此限ニアラス

第五十七條 各館於テハ每一月其出納スル所ノ現金受拂計算書ヲ別紙雛形ニ據リ調製シ毎月精算書ト共ニ外務省ヘ差出スヘシ

第十八章 収入金及返納金

第五十八條 旅券其他諸手数料及ヒ不用品拂下代金等總テ収入金ハ一箇月分取廻メ兼テ外務省ヨリ回付シアル明細仕譯書用紙ニ書載セテ外務省及各主管廳ヘ報告シ現金ハ其館ニ監守大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ

第五十九條 公使領事以下官員歸朝スルカ或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ兼テ回付シタル本人年俸金ニ對シ過不足ヲ精算シ無遲滯外務



省へ報告スヘシ(三十二年外務省令第一號ヲ以テ本條末文五十字ヲ刪ル)

第六十條 年度末ニ至リ經費金等殘餘ヲ生スルトキハ其館ニ於テ之ヲ管守シ大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ(三十二年外務省令第一號ヲ以テ本條中改正)

第十九章 雜

第六十一條 官金ハ其公館へ堅牢ナル器物ヲ備へ貯藏スルカ或ハ信用アル銀行へ預ケ置リ等便宜ニ任スト雖モ銀行へ預ケ入ル、トキハ其銀行名等豫テ外務省へ報告スヘシ

第六十二條 備付什器等不用ニ屬シ拂下ケヲ爲ストキハ其品名及原價ヲ付シ前以テ伺出ヘシ但拂下ケ代金ハ他費へ任用スルヲ許サス  
第六十三條 公使領事館へ各省廳ヨリ依頼スル注文品代價ハ其依頼ノ通知額ヲ目途ニ其地最寄ニアル正金銀行支店ヨリ金額ヲ引出シ依頼ニ向テ逆爲換ヲ取組之レカ償還ノ手續ヲ爲シ經費金等ヲ以テ繰替ヲ爲スヘカラス

第六十四條 清國或ハ朝鮮國ニ在ル公使館若シハ領事館ニ雇ノ名義ヲ以テ在勤スル者ハ費用條例ニ據ラス左ノ通支給ス

- 一 在勤俸給ハ時々之レヲ定ム
- 一本邦ニテ拜命ノ者ニ限リ出發前支度料トシテ在勤俸ノ一箇月分ヲ支給ス
- 一 滯京及旅中ノ俸給ハ在勤俸ノ半額トス

甲 號

外國行航費定額但船客料荷物運賃船中諸費共

一 等 一 人 分 二 等 一 人 分

- 一 航費ハ費用條例中定額アル分ハ右ノ二等ヲ給シ定額ナキ分ハ中等若クハ中等ナキトキハ下等船車賃等實費ニ基キ支給スヘシ但私用荷物運賃ハ二十頁目迄ヲ限リ官費支給スヘシ
- 一 航海中ノ日當ハ金六拾錢ヲ給ス但官船ニテ渡航ノ節ハ右日當ノ外賄料トシテ一日金六拾錢ヲ支給スヘシ
- 一 内地滞在中ハ日當金三拾五錢ヲ支給シ前欸ノ航海日當ハ支給セズ
- 一 外國諸港ニ滞在スルトキハ一般旅費定則等外ニ準シ旅舍賄料(朝鮮ハ一日金七拾錢ヲ支給スヘシ)
- 第六十五條 在勤中公用ニテ旅行ノ節ハ旅行雜費トシテ一日金壹圓三拾錢ヲ日數ニ應シ支給スヘシ
- 第六十六條 妻孥寄願ハ本人ノ願書ニ限ル留守宅或ハ親戚等ヨリ願出ルモ之レヲ許サヌ尤本人ヨリノ依頼狀等其情願ヲ證スル丈ケノモノアルトキハ此限ニアラス

實際官並領事費用條例





從米國桑港至布哇ホノル、	米金九拾弗	從米國紐育至英國リバプール	同百貳拾弗	從米國三拾貳弗五拾仙
從瑞典マルモ至丁抹コペンハーゲン	銀貨六拾錢	從瑞典マルモ至丁抹コペンハーゲン	銀貨五拾錢	
從丁抹コルセル至獨國キール	同四圓六拾錢	從獨國アボイ港至瑞典ストックホルム	同壹圓八拾錢	
從露國アボイ港至瑞典ストックホルム	同拾四圓貳拾錢	同陸路旅費定額	同九圓貳拾錢	
同陸路旅費定額 但汽車并荷物運賃等一人分ノ算計ナリ				
從佛國馬耳塞至同國リオン	上 銀貨拾四圓	中 銀貨拾壹圓	等	
同至同國巴里府	同三拾五圓	同貳拾七圓		
從佛國リオン至同國巴里府	同貳拾壹圓	同拾六圓		
從佛國巴里府至英國倫敦府	同貳拾五圓	同拾九圓		
同至和蘭海牙府	同貳拾圓	同拾五圓		
同至澳國維也納府	同五拾九圓	同四拾三圓		
同至澳國トリエント	同五拾九圓	同四拾三圓		

同至伊國羅馬府	同六拾六圓	同四拾九圓
同至伊國ミラン	同四拾圓	同三拾圓
同至伊國ウニエス	同五拾貳圓	同三拾九圓
同至伊國プリンジーン	同七拾六圓	同五拾四圓
同至伊國フロレンス	同五拾三圓	同三拾八圓
同至伊國ナール	同七拾七圓	同五拾五圓
同至伊國ナユリン	同三拾三圓	同貳拾五圓
同至伊國セーヌア	同五拾貳圓	同三拾九圓
同至瑞西國ベルヌ府	同貳拾三圓	同拾七圓
同至瑞西國チユーリヒ	同貳拾四圓	同拾八圓
同至瑞西國セネーツ	同貳拾六圓	同拾九圓
同至瑞典ストックホルム	同七拾圓	同五拾四圓
同至丁抹コペンハーゲン	同四拾五圓	同三拾七圓
同至白耳義ブリュセル府	同拾三圓	同拾圓

交際官並領事費用條例

同至白耳義ヲスタン	同	拾	四	圓	同	拾	壹	圓		
同至西班牙マドリト府	同	五	拾	八	圓	同	四	拾	四	圓
同至葡國リスボンヌ府	同	八	拾	八	圓	同	六	拾	六	圓
同至那威シリヌチアニーヤ	同	七	拾	八	圓	同	五	拾	五	圓
同至獨國伯林府	同	四	拾	圓	同	三	拾	四	圓	
同至獨國バーデン	同	貳	拾	三	圓	同	拾	七	圓	
同至獨國コロソニユ	同	拾	九	圓	同	拾	四	圓		
同至獨國フランクホルト	同	貳	拾	七	圓	同	貳	拾	圓	
同至獨國ドレスト	同	四	拾	四	圓	同	三	拾	三	圓
同至獨國ハンブルク	同	三	拾	七	圓	同	貳	拾	七	圓
同至獨國ムニツク	同	三	拾	七	圓	同	貳	拾	七	圓
同至獨國ストラスフルク	同	貳	拾	圓	同	拾	五	圓		
同至獨國ライプナツク	同	三	拾	九	圓	同	貳	拾	九	圓
同至洪葛利ブーダベスト	同	七	拾	貳	圓	同	五	拾	五	圓

同至土耳其コンスタンチノーブル	同	百	四	拾	五	圓	同	百	五	圓
同至露國モスコウ	同	百	拾	貳	圓	同	八	拾	圓	
同至露國ラヂツサ	同	百	〇	八	圓	同	八	拾	壹	圓
同至露國彼得堡府	同	九	拾	四	圓	同	七	拾	四	圓
從露國彼得堡府至同國モスコウ	同	拾	九	圓	同	拾	三	圓		
同至同國リッヂヤ	同	六	拾	七	圓	同	三	拾	九	圓
同至同國ワレンブルグ	同	六	拾	四	圓	同	四	拾	六	圓
同至同國ウラジカフカズ	同	七	拾	六	圓	同	五	拾	六	圓
同至同國サヂツサ	同	五	拾	六	圓	同	四	拾	五	圓
同至同國アポー港	同	貳	拾	壹	圓	同	拾	四	圓	
同至同國ヘルシングフオルス	同	拾	圓	同	七	圓				
同至同國レーウエル	同	拾	壹	圓	同	八	圓			
同至同國クラヌノエセロ	同	八	拾	錢	同	六	拾	錢		
同至同國ツアルスコエセロ	同	八	拾	錢	同	六	拾	錢		

同至同國ベテルホフ	同	八	拾	錢	同	六	拾	錢		
同至同國クロンスタット	同	壹	圓	三	拾	錢	同	壹	圓	
同至澳國クラコウイ	同	四	拾	貳	圓	同	三	拾	貳	圓
同至獨國エードクローネン	同	貳	拾	六	圓	同	貳	拾	圓	
從獨國エードクローネン至同國伯林府	同	貳	拾	八	圓	同	貳	拾	圓	
從獨國キール至同國ハンブルク	同	四	圓	同	同	三	圓			
從獨國ハンブルク至同國伯林府	同	拾	圓	同	同	七	圓			
從獨國伯林府至澳國維也納府	同	貳	拾	四	圓	同	拾	八	圓	
同至白耳義フリユツセル	同	三	拾	五	圓	同	貳	拾	六	圓
同至英國倫敦府	同	五	拾	八	圓	同	五	拾	圓	
同至和蘭アムステルダム	同	貳	拾	六	圓	同	貳	拾	圓	
從和蘭アムステルダム至同國海牙	同	壹	圓	貳	拾	錢	同	七	拾	錢
從伊國ナール至同國羅馬府	同	九	圓	同	同	六	圓			
從伊國羅馬府至同國ヴェニス	同	貳	拾	四	圓	同	拾	八	圓	

十一  
令第一號  
ヲ從  
ナリ  
以下  
五  
追加

同至同國ミラン	同	貳	拾	六	圓	同	拾	九	圓	
從伊國ヴェニス至同國ミラン	同	拾	貳	圓	同	九	圓			
同至澳國維也納府	同	拾	九	圓	同	拾	四	圓		
從澳國トリエスタ至伊國ヴェニス	同	九	圓	同	同	七	圓			
同至同國維也納府	同	拾	九	圓	同	拾	四	圓		
從澳國クラコウイ至同國維也納府	同	拾	三	圓	同	拾	圓			
從瑞典ストックホルム至同國マルモ	同	貳	拾	圓	同	拾	五	圓		
從丁抹コペンハーゲン至同國コルセル	同	四	圓	同	同	三	圓			
從英國サウサンプトン至同國倫敦府	同	七	圓	同	同	五	圓			
從英國倫敦府至同國リッルプール	同	拾	五	圓	同	拾	壹	圓		
從米國桑港至同國紐約府	同	貳	百	三	拾	五	圓	五	拾	錢
從清國天津至同國北京府	同	四	拾	圓	同	三	拾	圓		
從ブリッジギー至ミニユツシ	同	五	拾	五	圓	同	四	拾	圓	
從ミニユツシ至コロギー	同	貳	拾	圓	同	拾	四	圓		

交際官並領事費用條例









同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八級同	九級同	十級同	同	同	同	同	同	同	同
五拾五圓拾五圓拾五圓	五拾三圓拾四圓拾四圓	五拾四圓拾三圓拾三圓	五拾四圓拾三圓拾三圓	五拾四圓拾三圓拾三圓	五拾四圓拾三圓拾三圓	五拾四圓拾三圓拾三圓	五拾四圓拾三圓拾三圓	五拾四圓拾三圓拾三圓	五拾四圓拾三圓拾三圓

細則第三十條ニ揭示スル備付品科目

- 一 國旗
- 一 官印
- 一 備付書籍地圖
- 一 敷物
- 一 テーブル小卓并卓覆
- 一 帽子掛杓拭
- 一 箆筒書棚鐵函書物机
- 一 窓飾戸帳
- 一 暖爐
- 一 椅子
- 一 公務所書房具
- 一 公使館備付大馬車壹輛付屬品共

一 清國及朝鮮國公使館備付大轎子貳座付屬品共  
 右十三件ハ公使領事公務所參事官以下事務取扱所對客間來客扣所食堂備付ノ分ニシテ細則第四十四條ニ掲載スル區分ニ依リ定額又ハ實費ヲ以テ修葺新規買足ヲ爲スヘキ分

- 一 食事用テーブル掛ノ類
- 一 來客用食器具ノ類
- 一 來客間掛額鏡ノ類
- 一 時計及花瓶唾器ノ類
- 一 來客用吸煙器ノ類
- 一 暖爐用付屬品
- 一 火燈ノ類
- 一 庖厨具領事館ニ限ル(朝鮮國ハ官ヨリ之レヲ備付ケス)
- 一 端舟付屬品共 但領事館ニ限ル
- 一 公使館備付臥具壹組付屬品共(朝鮮國ハ官ヨリ之レヲ備付ケス)

但歐米公使館備付乘具十一組付屬品共

右十件其外修葺新規買足トモ公使領事ノ自辨タルヘシ  
 ハ新規買足トモ書面ノ通區分相立取扱可申事  
 但此科目外從前官費ヲ以テ買上有之分ハ總テ拂下ケ取計代價上

廿三年勅令第...  
 七十四號...  
 正令...  
 九類...  
 類ニ載ス

納スヘシ

○朝鮮公館附警部ノ官等俸給  
 朝鮮國駐在公使館領事館附警部官等俸給ハ勅令第四十二號警視廳官  
 制判任官四等以下ニ準據スヘシ

○在外國公使館附陸軍武官俸給令  
 明治二十一年三月 勅令第十八號

朕茲ニ在外國公使館附陸軍武官俸給令ヲ裁可ス

在外國公使館附陸軍武官俸給令

第一條 在外國公使館附陸軍武官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第二條 本令ニ關スル支給細則ハ陸軍大臣大藏大臣ト協議シ之ヲ定ム

ヘシ

別表

在外國公使館附陸軍武官年俸表

大	佐	中	佐	少	佐	大	尉	中	尉	少	尉
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

英 國	銀貨三千七百五十拾	銀貨三千五百圓	銀貨三千貳百五十拾	銀貨貳千六百圓	銀貨貳千三百五十拾	銀貨貳千圓
露 國	銀貨三千七百五十拾	銀貨三千五百圓	銀貨三千貳百五十拾	銀貨貳千六百圓	銀貨貳千三百五十拾	銀貨貳千圓
佛 國	銀貨三千七百五十拾	銀貨三千五百圓	銀貨三千貳百五十拾	銀貨貳千六百圓	銀貨貳千三百五十拾	銀貨貳千圓
米 國	銀貨三千七百五十拾	銀貨三千五百圓	銀貨三千貳百五十拾	銀貨貳千六百圓	銀貨貳千三百五十拾	銀貨貳千圓
獨 國	銀貨三千七百五十拾	銀貨三千五百圓	銀貨三千貳百五十拾	銀貨貳千六百圓	銀貨貳千三百五十拾	銀貨貳千圓
伊 國	銀貨三千六百五十拾	銀貨三千四百圓	銀貨三千百五十拾	銀貨貳千五百圓	銀貨貳千貳百五十拾	銀貨貳千圓
澳 國	銀貨三千六百五十拾	銀貨三千四百圓	銀貨三千百五十拾	銀貨貳千五百圓	銀貨貳千貳百五十拾	銀貨貳千圓
和 國	銀貨三千六百五十拾	銀貨三千四百圓	銀貨三千百五十拾	銀貨貳千五百圓	銀貨貳千貳百五十拾	銀貨貳千圓
清 國	銀貨三千百圓	銀貨貳千八百圓	銀貳千五百圓	銀貨千九百圓	銀貨千六百圓	銀貨千三百圓
朝 鮮 國	銀貨三千百圓	銀貨貳千八百圓	銀貳千五百圓	銀貨千九百圓	銀貨千六百圓	銀貨千三百圓

○在外國公使館附陸軍武官俸給支給細則  
 二十一年四月 陸軍省令第六號  
 在外國公使館附陸軍武官俸給支給細則左ノ通定ム  
 在外國公使館附陸軍武官俸給支給細則

交際官並領事費用條例

第一條 公使館附ヲ拜命スル武官ハ任所着翌日ヨリ起算シ歸朝スルキハ任所出發前日マテ公使館附武官ノ年俸日割ヲ以テ支給シ其任所到若前及出發後ハ各官ノ本俸ニ依リ支給ス

第二條 前條任所出發前日マテ公使館附武官ノ年俸ヲ支給スト雖モ歸朝ヲ命セラレ其請書ヲ差出シタル日ヨリ滞在三十日以上ニ及フハ其三十一日ヨリ各官ノ年俸ニ依リ支給ス

但特ニ滞在ヲ命セラレタル者ハ此限ニアラス

第三條 在勤ノ者任所替ヲ命セラレタルキハ舊任所出發當日ヨリ新任所ニ着ノ日マテ各官ノ本俸ニ依リ支給ス

第四條 本則ニ掲クルモノ、外ハ總テ陸軍武官俸給支給法ニ據ル

○無任所外交官年俸 明治十九年四月勅令第三十三號

沿革略記 明治十七年五月外務省へ達ヲ以テ無任所外交官月俸ヲ定ム  
 ○十九年四月勅令第三十三號ヲ以テ無任所外交官年俸ヲ更定ス

朕茲ニ無任所外交官ノ年俸ヲ裁可ス

一 無任所外交官ノ年俸ヲ定ムルニト左ノ如シ

特命全權公使	勅任一等	自貳千三百圓
辦理公使	勅任二等	自千七百圓
代理公使	奏任一等	自千七百圓
公使館參事官	奏任一等	自千七百圓
公使館書記官	奏任二等	自千四百圓
公使館書記官	奏任三等	自千四百圓
公使館書記官	奏任四等	自九百圓
公使館書記官	奏任五等	自六百圓
交際官試補	奏任五等	自七百圓
交際官試補	奏任六等	自三百圓

(二十年勅令第三十三號ヲ以テ本項追加)

一 無任所外交官外務省參事官ニ兼任セラレタルトキハ勅令第六號高等官官

無任所外交官年俸

高等官官俸  
給令ハ本願ニ  
觀ス

等俸給令ニ依リ其年俸ヲ支給ス

○税關鑑定官吏官等俸給明治二十年十二月勅令第七十號

朕茲ニ税關鑑定官鑑定吏官等俸給ノ件ヲ裁可ス

税關鑑定官鑑定吏ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令ニ依ル

技術官官等俸給令ハ本願ニ觀ス

○税關監吏補俸給明治二十三年七月勅令第四百十三號

朕茲ニ税關監吏補俸給ノ件ヲ裁可ス

税關監吏補ノ俸給ハ月俸拾五圓以下五圓以上トス

○陸軍武官官等俸給

沿革略記

明治元年二月軍防事務局ヲ置ク○同年閏四月軍防事務局ヲ廢シ兵部省ヲ置キ官位相當ノ制ヲ以テ陸軍大中少將ノ官ヲ定ム○同年八月前令ヲ改メ陸軍大中少將ノ官位ヲ更定ス○同年同月月給ノ制ヲ廢シ官祿ヲ定ム○三年九月陸軍大中少將大少尉正權曹長ヲ置キ官位ヲ定ム○同年閏十月陸軍下等官給俸等ノ定則ヲ以テ正權並ニ一三三四等曹長一三三三等伍長等ノ月給ヲ定ム○四年七月陸軍士官等ノ給俸諸定則ヲ定メ大少將ハ官祿大少佐大少尉ハ年給金下等士官以下日給金ヲ給シ且佐官尉官職務ノ難易閑劇ニ依リ増俸ヲ給シ下等官ハ食料ヲ給シ伍長等ハ現賄ト定ム○同年八月兵部省官制ヲ改メ大元帥元帥大中少將大少佐大少尉正權曹長軍曹ヲ置キ元帥以下官等ヲ定ム○同年九月官祿ヲ廢シ月給規則ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ兵部省中陸軍大中少將大少佐等ノ官等ヲ改正ス○同年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ陸軍省ヲ置ク○六年四月陸軍省無號達ヲ以テ行軍並陣營轉移與概則ヲ以テ旅次俸給ヲ定ム○同年同月陸軍省達ヲ以テ陸軍給養同備考ヲ

税關鑑定官吏官等俸給 陸軍武官官等俸給

定メ武官俸給表等ヲ制シ從前ノ規則此ト矛盾スル者ハ悉ク廢止ス  
 ○同年五月第五十四號ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改正シ大中少將  
 ヲ將官大中少佐ヲ上長官大中少尉ヲ士官曹長軍曹伍長ヲ下士階  
 級ヲ立テ官等ヲ定ム○同年同月第六十號ヲ以テ武官官等表中ヲ  
 改正ス○同年同月第五十七號ヲ以テ中尉少尉ヲ奏任ト爲ス○同  
 年同月陸軍省達少尉試補ヲ置カレ判任官ト爲ス○同年同月陸軍省  
 達權曹長ヲ廢セラル、ヲ以テ曹長俸給ヲ一等二等ト爲ス○同年同  
 月陸軍省達ヲ以テ工兵輜重兵ノ俸給ヲ定ム○同年七月陸軍省達ヲ  
 以テ喇叭樂隊ノ隊長次官以下等級ヲ定ム○同年十月陸軍省達ヲ以  
 テ列外士官下士官ノ増給表ヲ定ム○同年十一月陸軍省達軍醫試補  
 ヲ置カレ官等俸給ヲ定メラル○同年同月第三百九十四號ヲ以テ會  
 計軍醫馬醫ニ部中ノ中少尉同等官ヲ以テ奏任トス○同年同月陸軍  
 省達ヲ以テ會計軍醫馬醫三部佐官尉官ノ俸給ヲ改正ス○七年二月  
 陸軍省第七十一號達馬醫試補ヲ置カレ等級ヲ定メラル○同年十月  
 陸軍省第三百六十七號達會計部中軍吏試補ヲ置カレ官等並俸給支  
 給方ヲ定メラル○同年十一月第百二十一號布告ヲ以テ陸軍武官官  
 等ヲ改正ス○八年五月陸軍省第三百九十九號達ヲ以テ砲兵方面及砲  
 兵本支廠下士俸給ヲ定ム○同年九月第百四十五號布告ヲ以テ武官  
 官等表ヲ改正ス○同年十一月陸軍省達第百二十三號ヲ以テ下士並

近衛下士俸給表ヲ改訂ス○同年十二月陸軍省第四百四十四號達ヲ以  
 テ陸軍給與概則ヲ定メ武官ノ俸給第一第二第三並近衛俸給表及各  
 隊ノ俸給表ヲ制定シ九年一月ヨリ施行シ從前ノ給與表等ヲ廢止ス  
 ○十年十一月陸軍省達乙第二百二號ヲ以テ曹長下副官兼務スル者  
 ハ身分ノ取扱士官ニ準ス○十一年十二月陸軍省乙第七十一號達  
 ヲ以テ准官參謀大中少佐大中少尉俸給ヲ定ム○十二年十月第三十  
 九號達ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改正シ大中少將ヲ將官大中少佐ヲ  
 上長官大中少尉ヲ士官砲工兵上等監護樂長等ヲ准士官曹長軍曹伍  
 長ヲ下士トシ官等ヲ定ム○十三年一月第一號達ヲ以テ軍用電信技  
 手ヲ置キ官等並俸給ヲ定ム○同年四月陸軍省乙第二十六號達ヲ以  
 テ蹄鐵工長以下俸給表ヲ定ム○同年十二月陸軍省乙第七十六號達  
 ヲ以テ陸軍給與概則ヲ改メ武官ノ俸給表第一表ヨリ第八表迄ヲ制  
 シ十四年一月ヨリ施行ス○十五年二月陸軍省無號達ヲ以テ開拓使  
 準陸軍武官ヲ陸軍省ニ屬シ俸給支給方ハ從前ノ例ニ仍ラシム○十  
 六年五月第二十一號達ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改正ス○十七年五  
 月第四十四號達ヲ以テ陸軍下士ノ官等ヲ改正ス○十八年二月第六  
 號達ヲ以テ陸軍武官官等表中軍醫部上長官士官ノ名稱官等及馬醫  
 部ヲ獸醫部トシ其名稱等ヲ更定ス○同年五月第十七號達ヲ以テ陸  
 軍武官官等表中屯田兵軍樂部士官準士官ノ官等ヲ改正ス○十八年







○軍用電信技手官等及俸給 明治十三年一月第一號達  
 陸軍省中軍用電信技手ヲ置キ等級別表ノ通相定候條此旨相達候事  
 軍用電信技手官等及俸給表

官名	軍用電信一等技手	軍用電信二等技手	軍用電信三等技手
等級	十等	十一等	十二等
俸給	貳拾圓	拾六圓	拾貳圓
備考	非職ノ者ハ月給三分ニテ給スヘシ		

○陸軍給與令 明治二十三年三月勅令第六十七號  
 朕陸軍給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(給與令略之)

○陸軍省備員俸給支給規則 陸軍省令乙第四百四十二號  
 備員俸給支給規則別冊之通定ム

(前冊) 備員俸給支給規則

第一條 備員俸給ハ職務ニ依リ月給又ハ日給トシ毎月末日ニ休日ニ當ル  
係上 支給スルモノトス (二十三年陸軍省令第四百四十二號ヲ以テ二十七年  
 六月十六日云々ノ十五字ニ改ム)

第二條 新ニ備入ノルハ職務ニ就タル當日ヨリ解備死亡ノルハ其當日  
 迄支給スルモノトス

但日數計算ノ法ハ其支給スヘキ日數ヲ月額ニ乘シ而シテ其月ノ現  
 日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止メテ給ス

第三條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ増減スヘシ

第四條 公務旅行中ノ俸給ハ豫メ受取人ヲ定メ發程前ニ具申スヘシ  
 但本人ノ情願ニ依リ翌月分ノ俸給繰上ケ支給スルヲ得

第五條 月給ノ者病氣 (病地) 私事ノ故障 (引願) ニ因リ出務セサル者  
 三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第六條 日給ノ者大祭日祝日日曜日等ノ休暇ハ之ヲ支給シ病氣引其  
 他不參ノ日ハ總テ支給セサルモノトス

○雇人料ヨリ支給スル月雇ノ俸給支給方 二十一年七月一號  
 陸軍省令第四百六十一號

雇人料ヨリ其給料ヲ支給スルモノ、内月給雇ノ者俸給支給法ハ去ル十九年十月省令乙第四百四十二號違備員俸給支給規則ニ準據スヘシ但賜休暇ノ外不參ノ日ハ日割減給ス  
○陸軍省各官廩筆工圖工雇入制限陸軍省令乙第四百四十二號各局各官廩等ニ於テ筆工圖工雇入之儀自今常務外臨時取調等ノ爲メ其委員ニ於テ要スル如キ場合若シハ各局各部定員俸給ノ額内ヲ以テ支辨シ得ルノ外相成ラス

○理事錄事官等俸給 明治二十年三月 勅令第二號

沿革略記 明治十年一月第十五號違ヲ以テ陸軍裁判長正權評事大中少主理大中少錄事ヲ置キ官等ヲ定ム○十五年五月第二十三號違ヲ以テ陸軍省中更ニ理事理事補審事審事補錄事ヲ置キ官等俸給ヲ定ム○十九年二月第六號布告ヲ以テ陸軍治罪法中改正ニ付審事審事補自ラ廢減ニ屬ス○二十年三月勅令第二號ヲ以テ理事錄事官等俸給ヲ定ム

朕茲ニ理事錄事ノ官等俸給ヲ裁可ス

理事錄事官等俸給

理事ノ官等ハ勅任一等以下奏任六等以上トス其年俸ハ明治十九年勅令第四十一號ニ依ル

錄事ノ官等月俸ハ明治十九年勅令第三十六號ニ依ル

全文ハ第十八號ノ部ニ載ス

○陸海軍學校教官官等俸給 明治十九年十一月 勅令第六十八號節錄  
朕茲ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス

陸軍及海軍教官

第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

理事錄事官等俸給 陸海軍學校教官官等俸給

勅令第四十一號ノ部ニ載ス

勅令第三十六號ノ部ニ載ス

勅令第六號及勅令第三十六號ノ部ニ載ス

武官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス

○陸地測量官官等俸給 勅令第三十二年三月

朕茲ニ陸地測量官官等俸給ノ件ヲ裁可ス

陸地測量官ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令ニ依ル

勅令第三十八號ハ本頁ニ載ス

○海軍武官官等俸給

沿革略記

明治元年二月軍防事務局ヲ置ク○同年閏四月軍防事務局ヲ廢シ軍務官ヲ置キ海軍將ノ官等ヲ定ム○二年七月軍務官ヲ

廢シ兵部省ヲ置キ官位相當ノ制ヲ以テ海軍大中少將ノ官ヲ定ム○同年八月前令ヲ改メ兵部省中海軍大中少將ノ官位ヲ更定ス○同年同月俸給ノ制ヲ廢シ官祿ヲ定ム○三年九月海軍大中少將大中少尉ヲ置キ官位ヲ定ム○四年八月兵部省官制ヲ改メ大元帥元帥大中少將大中少佐大中少尉正權曹長軍曹ヲ置キ元帥以下官等ヲ定ム○同年九月官祿ヲ廢止シ月給規則ヲ定ム○同年十月海軍規則並俸給表ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ兵部省中海軍大中少將大中少佐等ノ官等ヲ更正ス○同年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省ヲ置ク○同年四月海軍省乙第十六號達ヲ以テ曹長以下祿制確定迄假ニ月給ヲ定ム○同年八月海軍省乙第百號達ヲ以テ軍艦乘組從前ノ官等月給ハ都テ相廢シ更ニ軍艦乘組官等表並日給表ヲ定ム○同年九月海軍省乙第百三十號達ヲ以テ中等士官曹長以下祿制ヲ定ム○同年十月第三百五號達ヲ以テ海軍武官官等ヲ定ム○同年同月海軍省乙第二百四十六號達ヲ以テ一等卒以下月給表ヲ定ム○六年五月第百五十四號達ヲ以テ海軍武官官等ヲ改定ス○同年同月第百五十七號達ヲ以テ中少尉ヲ奏任トス○同年六月海軍省甲第百廿三號達ヲ以テ海兵隊伍長副日給ヲ定ム○同年八月第百八十八號ヲ以テ海軍武官官等表ヲ改正ス○同年同月海軍省甲第百五十九號達文武官官等表改正ニ付テハ追テ相違スル迄月給等ハ從前ノ等級ニ

陸地測量官官等俸給 海軍武官官等俸給

引當支給ス○同年同月海軍省甲第七十一號達ヲ以テ海軍概則並俸給制ヲ定メ來ル九月一日ヨリ施行ス○同年十一月第三百九十四號達ヲ以テ海軍省軍醫秘書主計機關四科中ノ中少尉相當ノ官ヲ以テ委任トス○同年十二月海軍省甲第二百三十七號達ヲ以テ海軍俸給制中海兵列外武官加俸表ヲ増補ス○七年五月第四十五號布告ヲ以テ樂隊ノ官等ヲ改ム○同年同月海軍省甲第四十九號達ヲ以テ機關士補俸給制ヲ定ム○八年三月海軍省<sup>三</sup>第三十六號達ヲ以テ軍人軍屬犯罪俸給概則ヲ定ム○同年九月海軍省<sup>三</sup>第三百二十三號達ヲ以テ諸艦船沈沒破壞等ノ節乘組人俸給支給方ヲ定ム○九年五月海軍省<sup>三</sup>第四十五號達ヲ以テ武官ニシテ文官兼任者ノ俸給ハ其多キ方ヲ以テ給シ身分ハ高官ノ方ヲ以テ取扱ハシム○同年七月第六十九號達ヲ以テ軍樂隊官等表ヲ改正ス○同年八月海軍省番外達ヲ以テ軍樂隊給與表并概則ヲ定ム○同年同月第百十三號布告ヲ以テ武官官等表ヲ改定ス○同年同月第八十三號達ヲ以テ東海西海鎮守府ヲ置ク○同年九月海軍省丙第七號達ヲ以テ軍醫總監等ノ俸給ヲ定メ其支給方ハ俸給制ニ照準セシム○同年十一月海軍省丙第五十五號達ヲ以テ東海鎮守府司令長官俸給額ヲ定ム○十年三月海軍省丙第四十七號達ヲ以テ文武官兼任者月俸自今文官ノ祿稅ヲ除キ武官ノ俸給ニ比較シ其多キ方ニ就キ支給ス○同年八月海軍省丙第八十

四號達ヲ以テ附屬月給加俸ノ區別ヲ定ム○十一年七月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ武官並乘艦文官俸給ヲ改正ス○十二年三月海軍省丙第二十五號達ヲ以テ海軍概則並俸給制ヲ改正増補ス○同年十月海軍省丙第九十九號達ヲ以テ兵器局ヲ置キ一等業生以下ノ官等ヲ定ム○十三年四月海軍省丙第三十五號達ヲ以テ掌砲水兵木工ノ三上長俸給ヲ五等ニ分テ俸給表ヲ改正ス○十四年一月海軍省ヘ達ヲ以テ海軍武官ヨリ太政官書記官ヲ兼任シ專務ナルハ俸給太政官ヨリ支給ス○十五年三月海軍省丙第十六號達ヲ以テ兵器工長及三上長屬ノ日給額ヲ定ム○同年六月第三十三號達ヲ以テ海軍武官官等表ヲ改正ス○同年八月海軍省丙第五十六號達ヲ以テ官等表改正ニ付機關主計ノ兩總監及四上長等ノ俸給ヲ改正ス○同年同月海軍省丙第五十七號達ヲ以テ海軍下士以下日給表ヲ定ム○十六年四月海軍省丙第三十九號達ヲ以テ犯罪人俸給概則ヲ廢シ更ニ在監人給與規則ヲ定ム○同年十一月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ海軍樂隊概則並ニ俸給表等ヲ定メ從前ノ違ハ總テ廢止ス○同年同月海軍省丙第百五號達ヲ以テ海軍武官待命俸並非職俸ヲ定メ十二月一日ヨリ施行シ下士以上從前ノ非職非役俸ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス○十七年一月海軍省丙第八號達ヲ以テ海軍下士以下給與概則ヲ定ム○同年二月海軍省丙第十九號達ヲ以テ大少將并機關軍醫主